UNI-PEX

工事説明書

本　編

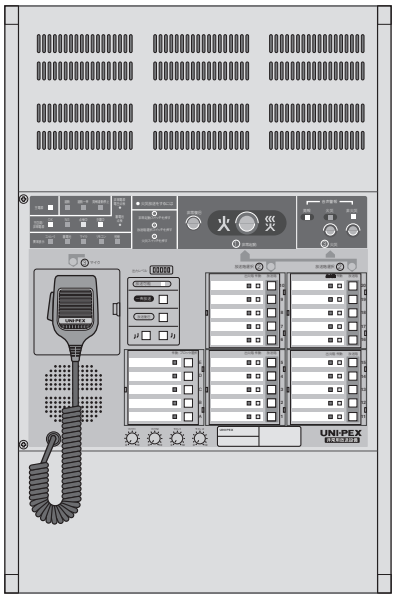
壁掛形非常用放送設備

連動式・10回線
EWA-010B

連動式・10回線・ラジオチューナー付※
EWA-010RB

連動式・20回線
EWA-020B

連動式・20回線・ラジオチューナー付※
EWA-020RB



EWA-020B

工事の前にこの説明書をよくお読みいただきますようお願いいたします。

「書き込み」についての説明は別冊の工事説明書（書き込み編）をご覧ください。

※ラジオチューナー付EWA-010RB、020RBをお買い求めのお客様は別紙「ラジオチューナー部の取扱説明書」もご覧ください。

目次

安全上のご注意……2、3

使用上のお願い……4

設置工事の前に……5～7
- ■工事の順序……5
- ■工事に必要な工具……5
- ■接続線について……5
- ■非常放送の流れ……6、7

設置上のご注意……8

設置のしかた……9～12
- 1.取付位置を決定します……9、10
- 2.上下カバーをはずします……10
- 3.本体を壁面に取り付けます……11
- 4.電源、スピーカー、外部機器の接続をします‥11
- 5.電力増幅ユニット、蓄電池を取り付けます‥‥12
- 6.カバーを取り付け、操作パネルを閉めます‥12

接続のしかた……13～25
- ■接続できる機器について……13
- ■接続端子の構成……14
- ■自火報関連設備の接続……15
- ■非常業務用リモコンの接続……16
- ■一般リモコンの接続……17
- ■外部音源機器の接続……18
- ■音声入力端子の接続……19
- ■汎用制御出力の接続……19
- ■スピーカーの接続……20
- ■電力増幅ユニット（別売）の接続……21
- ■蓄電池、電源の接続……22
- ■設定・調整……23～25

表示カードの使いかた……26

設置時の点検……27～35
- ■動作点検(非常放送)……28～33
- ■動作点検(業務放送)……34、35

保守点検のしかた……36～39
- ■点検について……36
- ■総合点検について……36
- ■電源の点検……37、38
- ■スピーカー回線の点検および絶縁抵抗試験‥39

外観寸法図……40

サポートのご案内……40

安全上のご注意　必ずお守りください

●設置工事の前に必ず、この「安全上のご注意」と工事、取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しく設置してください。
●お読みになったあとは、必ず保存してください。

安全に正しくお使いいただくために

この工事説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

△記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

◯記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。左図の場合は一般的な行為を指示する表示です。

⚠危険

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

蓄電池を分解／改造はしない
電池内部の液が飛び出し目に入ったりして失明などの事故の原因となります。

蓄電池を火の中に入れない
火気にも近づけないでください。発火、破裂の原因となります。

蓄電池の＋／－端子をショートさせない
発熱、発火の原因となります。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

異常が起きたときは、ただちに使用をやめる
煙が出ている、においや音がする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちに分電盤の電源を切り、保守契約店または工事店にご連絡ください。

工事は工事店に依頼する
工事には、技術と経験が必要です。、火災・感電、けが、器物損壊の原因となりますので、工事店にご相談ください。

雷が鳴り出したら、アンテナ線、スピーカー線には触れない
感電の原因となります。

分解／改造はしない
火災・感電の原因となります。点検時以外にこの機器の裏ぶた、カバーなどは絶対に外さないでください。内部の点検・整備・修理は保守契約店または工事店にご依頼ください。

異物を入れない
水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに分電盤の電源を切って、保守契約店または工事店にご連絡ください。

通風孔をふさがない
通風孔をふさいだり、ものをのせたり通風を悪くすると内部に熱がこもり火災の原因となります。

決められたヒューズを使う
規定以外のヒューズを使うと火災の原因となります。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

定期的に点検をする

非常時に作動しないと、火災や災害を拡大する原因となります。
点検は保守契約店または工事店にご依頼ください。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しない

火災・感電の原因となります。

蓄電池の充電は、必ずこの機器を使用する

この機器以外の充電器を使用すると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となります。

蓄電池は、使用開始日から4年を経過したら、点検時に正常電圧が表示されても必ず新しい蓄電池に交換してください。また、寿命は使用状態により異なりますので、それ以前でも点検時に容量不足があれば、新しい蓄電池に交換してください。交換は保守契約店または工事店にご依頼ください。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所に置かない

火災・感電の原因となることがあります。

不安定な場所に置かない

落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

指定以外の蓄電池は使用しない

蓄電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

開梱や持ち運びは、必ず2人以上でおこなう

この機器は重いので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行ってください。けがの原因となることがあります。

蓄電池に張ってあるビニールカバーははがさない

ショートして電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

重量に耐える場所に取り付ける

取付場所の強度が不充分なとき、落下したりしてけがや破損の原因となることがあります。

蓄電池は、必ず点検をおこなう

蓄電池の点検は日常点検のほかに、外観点検および機能点検は6カ月に一度以上、総合点検は1年に一度以上行ってください。火災や故障の原因となることがあります。なお、点検費用については保守契約店または工事店にご相談ください。

機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読みください。機器の接続は保守契約店または工事店にご依頼ください。

使用上のお願い

●日常点検をしてください。

万一の際、正常に機器が動作するよう日常点検をおこなってください。特に非常電源の点検は必ずおこなってください。（点検方法は「保守点検のしかた」の項をごらんください。）

●日常点検時に異常を発見した場合は、ただちに販売店または保守契約店にご連絡ください。修理・復旧を実費でおこないます。

くわしくは販売店にご相談ください。

●日常点検は機器の動作の一部だけを点検するもので、全てではありません。必ず定期点検をおこなってください。

●保守契約のお願い

消防法により定期点検、消防署への報告、および点検結果の維持、台帳への記録が**義務づけられています。**
建物の規模、用途によっては**消防設備士**、または自治大臣が認めた**有資格者**が点検しなければなりません。
非常業務兼用放送設備が正しく動作するために、保守契約の締結をおすすめします。保守契約の締結については、販売店（工事店）または販売会社にお問い合わせください。
保守契約を締結していただくことは、ご使用者にかわって「消防設備士（第4類甲、乙、第7類乙）」・「第2種消防設備点検資格者」が定期点検をお引き受けするわけですから、**保証期間内であっても定期点検業務については有償となります**

●分電盤のスイッチは絶対に切らないでください（常に主電源表示灯が点灯していること）。非常放送設備には、停電時でも放送できるように非常電源（蓄電池）が組み込まれており、常に蓄電池を充電していますので分電盤などのスイッチには付属の非常放送用注意ラベルを貼付し、絶対に“切”にならないようにしてください。

●遮断装置について

- 本機には電源スイッチ（遮断装置）がありませんので、保護アース導体を除く、主電源のすべての極が遮断できる電源スイッチ、または配線用遮断器（安全ブレーカーなど）を配電盤などの建築設備に設置してください。

●設置について

- **本機の上や周囲に物を置かないでください。**
  本機の上部は通風孔になっていますので、物を置かないでください。故障の原因となります。
  また、左右0.3m以内、操作面1m以内には物を置かないでください。操作の妨げになる原因となります。
- **操作説明書は本機の近くに置いてください。**
  非常時に確実に操作できるように、本機の近くに置いてください。
  本機の上には絶対に置かないでください。（設定した起動方式のページを透明ケースに入れてください。）
- **本機を雑音発生の原因になる機器※の近くには設置しないでください。**

※高周波機器（乾燥機,医療機器など）、電気溶接機、ブラッシングモーター、自動車の通る道、携帯電話機、デジタル機器（コンピューター、電子楽器など）、空気清浄器。

●お手入れのしかた

ケースが汚れたらうすめた台所用洗剤を布にしみ込ませ、よくしぼり、軽くふいてください。そのあと、から拭きしてください。

お願い

- 操作部に触れますと、非常放送などが放送される場合があります。お手入れをする場合は操作部に触れないようにするか、適切な状況のもとでのみお願い致します。
- ベンジンやシンナーなど揮発性のもの、研磨剤は使用しないでください。
- 化学ぞうきんを使用するときは、その注意事項をよくお読みください。
- 内部の清掃や点検は、販売店にご相談ください。

設置工事の前に

■工事の順序

本書の関連事項が記載されているページをよくお読みいただき、次の順序で工事をおこなってください。

設置 ➡ 接続 ➡ 設定（書き込みなど） ➡ 調整（音量など） ➡ 点検（動作確認）

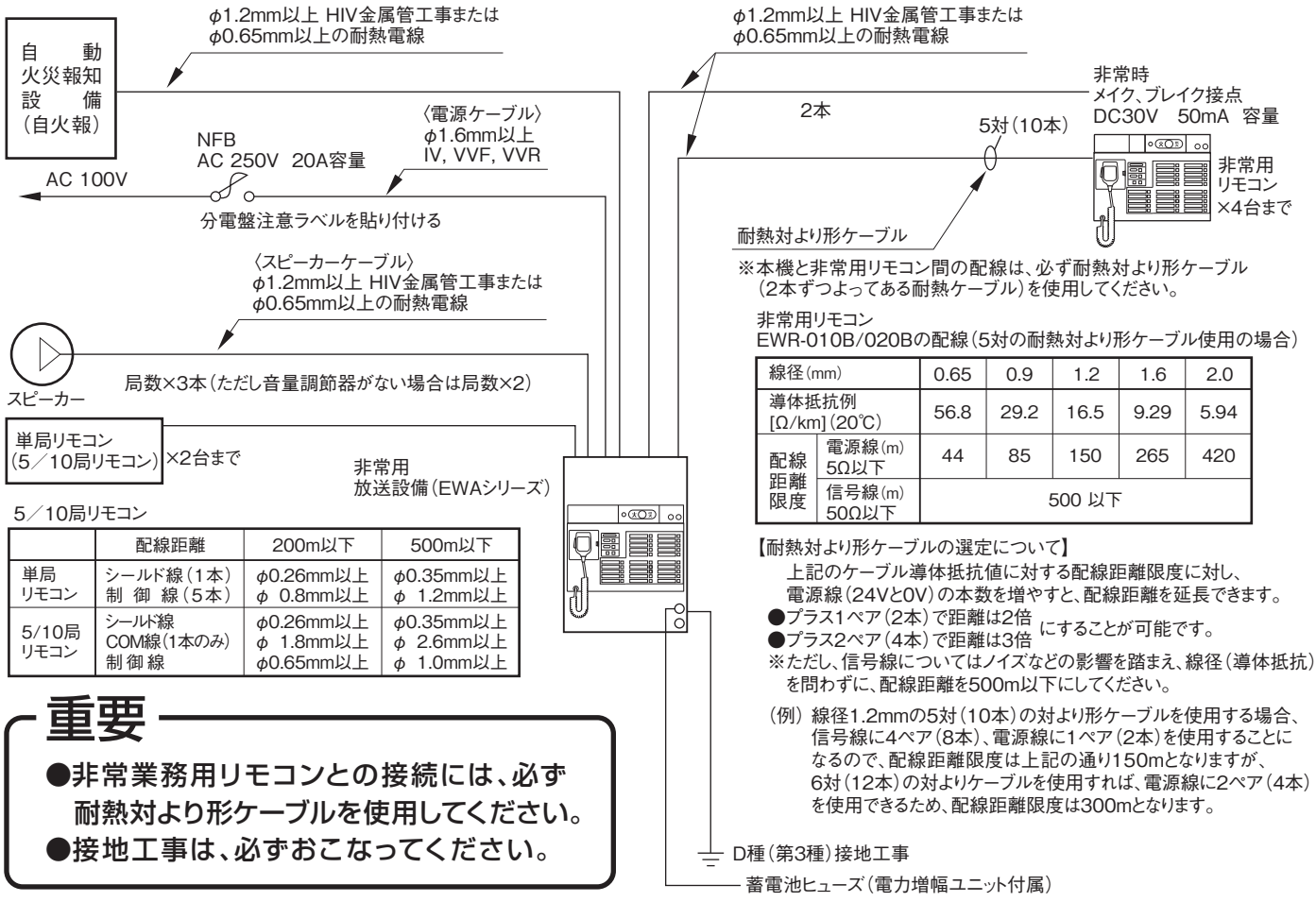
●非常放送に関わる設定事項は、最寄りの消防署の確認をとって設定してください。
詳細は次ページの『非常放送の流れ』を参照してください。

■工事に必要な工具

電動ドリル
アンカーボルト　} コンクリート壁に取り付けるとき
木ねじ
板壁用アンカーボルト　} 板壁に取り付けるとき
ハンマー
スケール
ドライバー　プラス4mm用、マイナスドライバー
ラジオペンチ
電工ニッパー
アンカー取付工具
圧着用工具

■接続線について

接続線は、下図を参考にご用意いただくようお願いいたします。



※本機と非常用リモコン間の配線は、必ず耐熱対より形ケーブル（2本ずつよってある耐熱ケーブル）を使用してください。

非常用リモコン
EWR-010B/020Bの配線（5対の耐熱対より形ケーブル使用の場合）

線径（mm）		0.65	0.9	1.2	1.6	2.0
導体抵抗例 [Ω/km]（20℃）		56.8	29.2	16.5	9.29	5.94
配線距離限度	電源線（m） 5Ω以下	44	85	150	265	420
	信号線（m） 50Ω以下	500 以下				

5／10局リモコン

	配線距離	200m以下	500m以下
単局リモコン	シールド線（1本） 制 御 線（5本）	φ0.26mm以上 φ 0.8mm以上	φ0.35mm以上 φ 1.2mm以上
5/10局リモコン	シールド線 COM線（1本のみ） 制 御 線	φ0.26mm以上 φ 1.8mm以上 φ0.65mm以上	φ0.35mm以上 φ 2.6mm以上 φ 1.0mm以上

【耐熱対より形ケーブルの選定について】
上記のケーブル導体抵抗値に対する配線距離限度に対し、電源線（24Vと0V）の本数を増やすと、配線距離を延長できます。
●プラス1ペア（2本）で距離は2倍
●プラス2ペア（4本）で距離は3倍
にすることが可能です。
※ただし、信号線についてはノイズなどの影響を踏まえ、線径（導体抵抗）を問わずに、配線距離を500m以下にしてください。

（例）線径1.2mmの5対（10本）の対より形ケーブルを使用する場合、信号線に4ペア（8本）、電源線に1ペア（2本）を使用することになるので、配線距離限度は上記の通り150mとなりますが、6対（12本）の対よりケーブルを使用すれば、電源線に2ペア（4本）を使用できるため、配線距離限度は300mとなります。

重要

●非常業務用リモコンとの接続には、必ず耐熱対より形ケーブルを使用してください。
●接地工事は、必ずおこなってください。

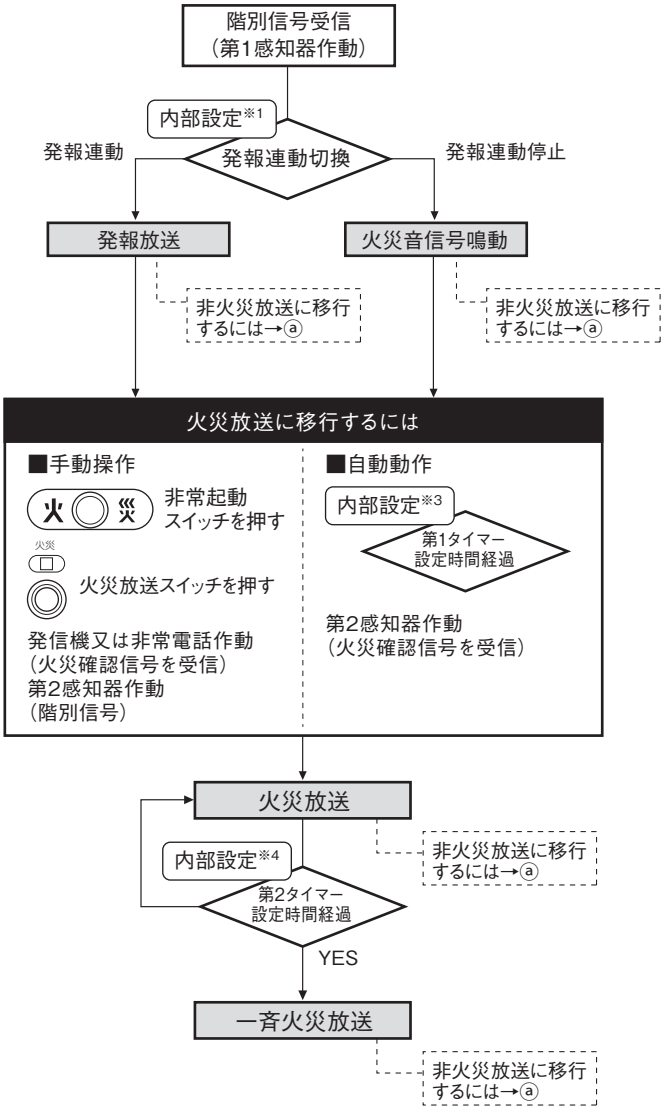
設置工事の前に

■非常放送の流れ

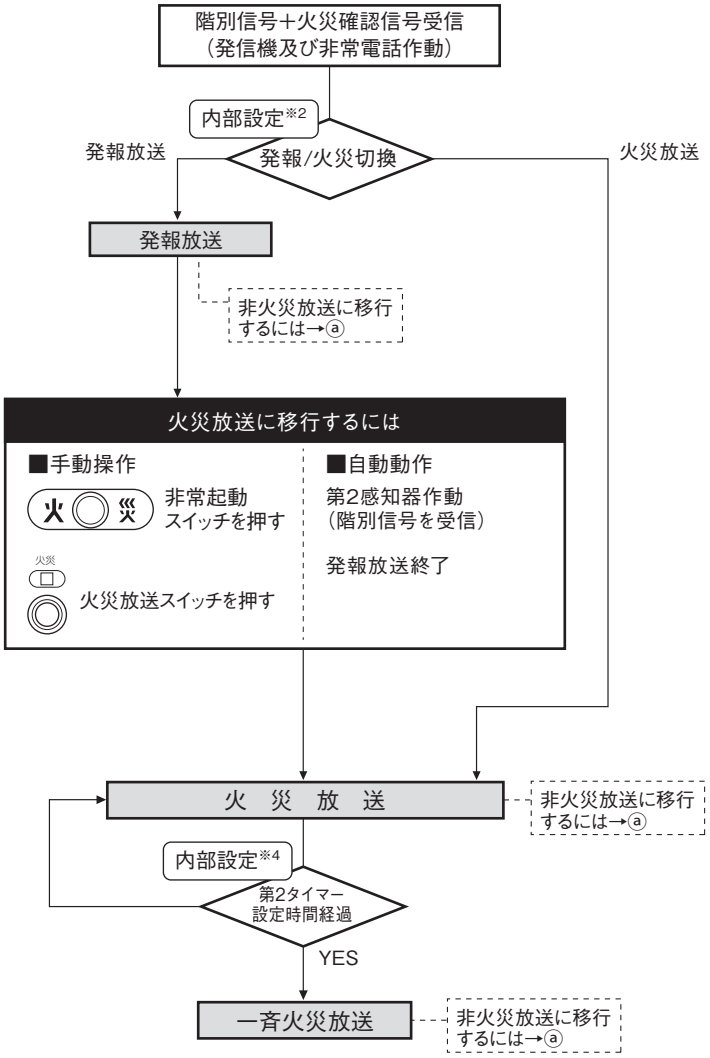
非常放送設備は以下に示す方法で起動されます。手動で起動することもできます。
非常放送設備が起動されると、自動的に非常放送を開始します。

●自動火災報知設備（以下、自火報と呼ぶ）に接続された火災感知器、発信機および非常電話による起動
●手動による起動

●火災感知器による起動



●発信機および非常電話による起動

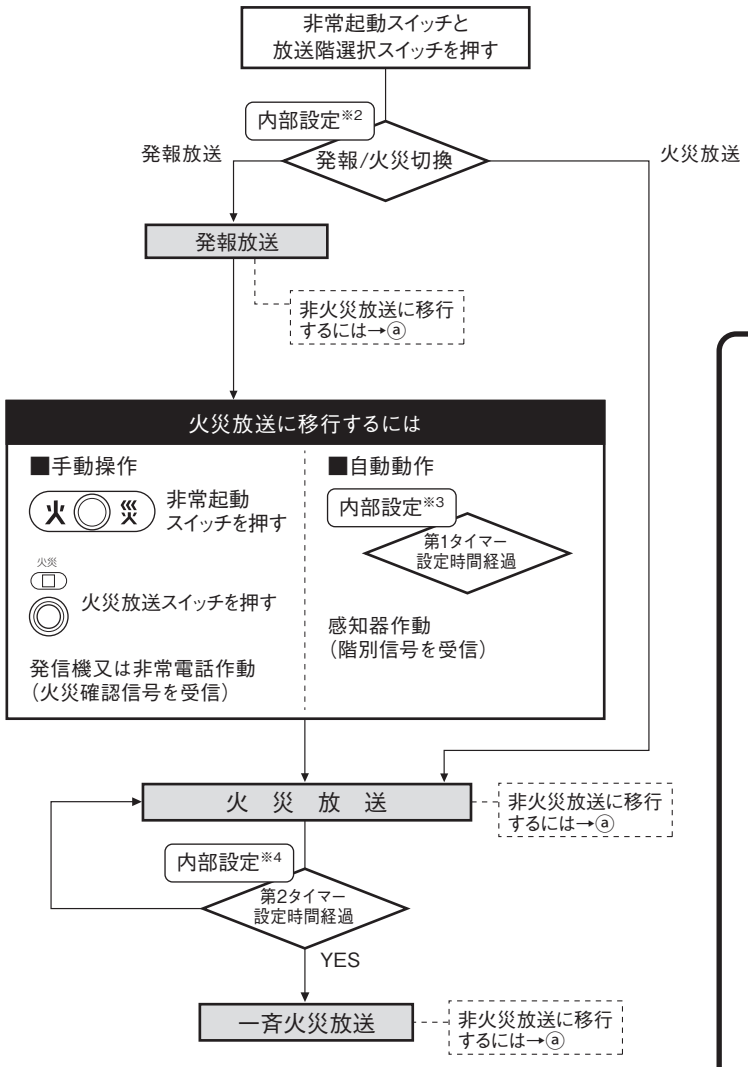


内部設定（放送方式）について（これらの設定については、最寄りの消防に確認をとってください。）

※1　発報連動切換設定……自火報と連動する放送（発報放送または火災音信号鳴動）や、発報放送の放送先を設定します。（火災音信号はモニター出力のみです。）
（詳細は23ページ及び工事説明書（書き込み編）6、7ページを参照してください。）

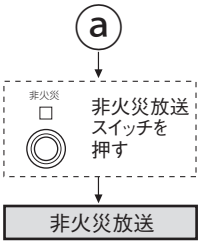
※2　発報／火災放送切換設定‥自火報との連動で発報放送をおこなうか、発報放送をとばして火災放送をおこなうかを設定します。
（詳細は工事説明書（書き込み編）6ページを参照してください。）

●手動による起動



●非火災放送に移行するには

非火災放送スイッチを押すことにより非火災放送に移行できます。



放送内容について

発報放送

ピンポン ピンポン ピンポン（第１シグナル音）
「○○階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

火災放送

ピンポン ピンポン ピンポン（第１シグナル音）
「火事です！火事です！○○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー ビュー ビュー（第２シグナル音）

非火災放送

ピンポン ピンポン ピンポン（第１シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

各放送文の○○には、感知器第１発報を出火階とした階情報が入ります。
（詳細は工事説明書（書き込み編）8、９ページの「2. 階情報指定」を参照ください。）

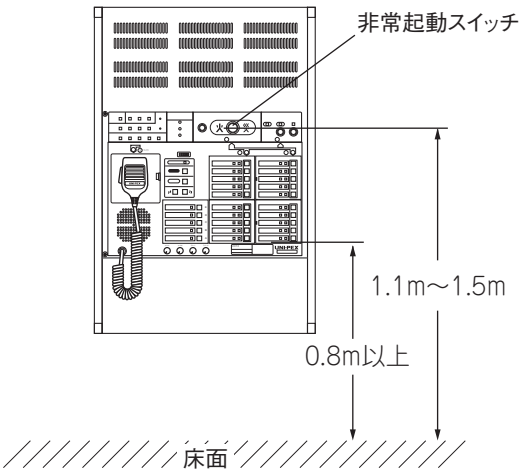
内部設定（タイマー）について（これらの設定については、最寄りの消防に確認をとってください。）

※3　第1タイマー設定･･･発報放送から火災放送へ移行するまでの時間設定です。
※4　第2タイマー設定･･･火災放送から一斉火災放送へ移行するまでの時間設定です。
（詳細は共に、工事説明書（書き込み編）10ページの「3. タイマー設定（1）第1タイマー/第2タイマー」を参照してください。）

設置上のご注意

●取り付け高さ

• 取り付け高さは床面から非常起動スイッチまでが1.1m～1.5mです。



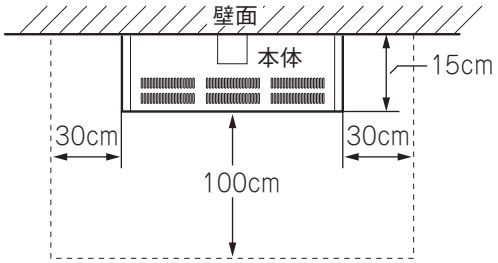
●壁面

• 本機は50kg以上の荷重にたえられる壁面に取り付けてください。

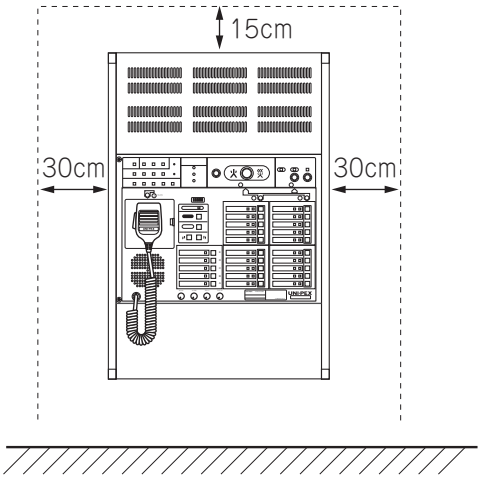
●障害物

• 下図の範囲内には障害物を置かないで、空間を確保してください。

上から見た図



正面から見た図



●操作説明書

• 非常時に確実に操作できるように、本機の近くに置いてください。本機の上には絶対に置かないでください。(設定した起動方式のページを透明ケースに入れてください。)

●設置工事完了後、分電盤のスイッチは絶対に切らないでください。誤って分電盤などのスイッチを「切」にしないように、付属の分電盤注意ラベルを分電盤に貼り付けてください。
本機は、停電時でも放送できるよう非常電源が組み込まれています。分電盤のスイッチを切ると、充電が行われず非常時に放送ができなくなる恐れがあります。

●本機と自火報を接続しない場合は、自火報受信機または副受信機と同一室内に設置してください。

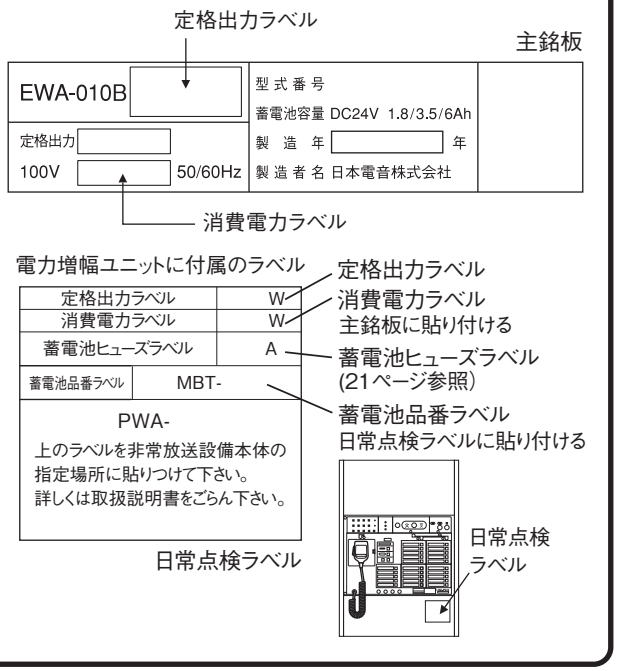
●一般リモコンは2台まで接続できます。
また非常用リモコン(10回線用: EWR-010A、010B、20回線用: EWR-020A、020B)は4台まで接続できます。

●本機には電源用ケーブルは付属しておりません。別途ご用意ください。

●本機は認定品ですので絶対に改造しないでください。

お願い

●主銘板と日常点検ラベル、及びヒューズホルダー横に次の事柄のラベル(電力増幅ユニットに付属)を貼り付けてください。



設置のしかた

●次の手順で設置をおこないます。

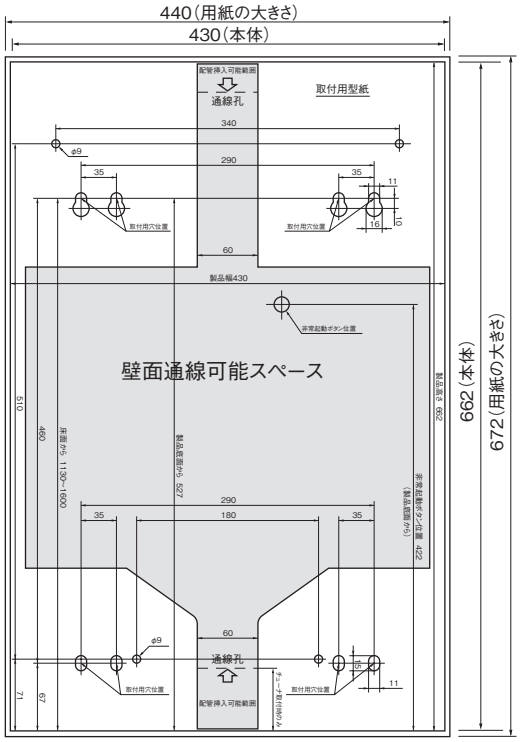
⚠警告

工事は、必ず分電盤のスイッチを「切」にしてからおこなってください。感電の原因になります。

1. 取付位置を決定します。 ➡ 2. 本体を取り付けます。 ➡ 3. 電源、スピーカー、外部機器の接続をします。 ➡ 4. 電力増幅ユニット、蓄電池を取り付けます。 ➡ 5. 上下カバーを取り付けます。

1. 取付位置を決定します

❶付属の型紙を、非常起動スイッチの位置が床面から 1.1～1.5m の所にくるように壁に貼り付けます。

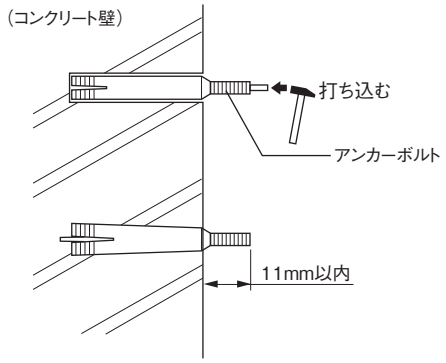


❷型紙に合わせて、4 ケ所の取付用穴をあけ、アンカーボルトを打ち込みます。また、アンカーボルトを使用できないような所への取り付けは、木ねじを使用します。

〔コンクリート壁のとき〕

※壁面は、50kg以上の荷重に耐えるコンクリート壁を選びます。

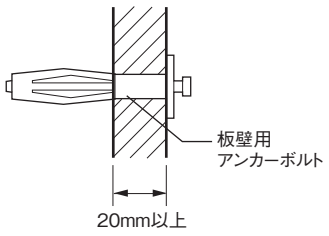
- 電動ドリルで穴をあけアンカーボルトを打ち込みます。



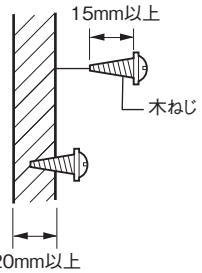
〔板壁などのとき〕

※木造やボード製の間仕切り程度に使用されている壁などへの取り付けは避け、しっかりした柱や板厚20mm以上の板壁を使用します。

- 電動ドリルで穴をあけ板壁用アンカーボルトを打ち込みます。また、板壁用アンカーボルトが使用できないような所は、木ねじを使用します。



（板壁用アンカーボルトを使用するとき）

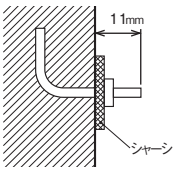


（木ねじを使用するとき）

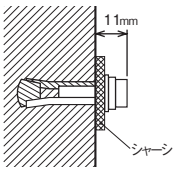
重要

壁取付用アンカーボルトの径と凸量は以下の範囲内で工事をお願いします。

〈埋め込みアンカーボルト〉
ボルト最大径：M10
ボルト最大凸量：11mm



〈エキスパンジョンアンカー〉
ボルト最大径：M8
ボルト最大凸量：11mm

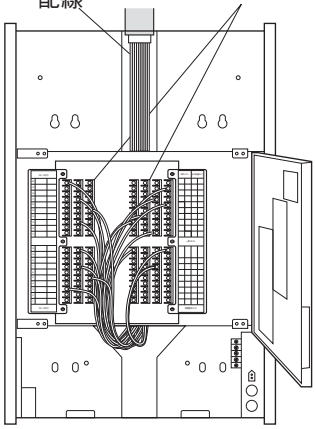


設置のしかた

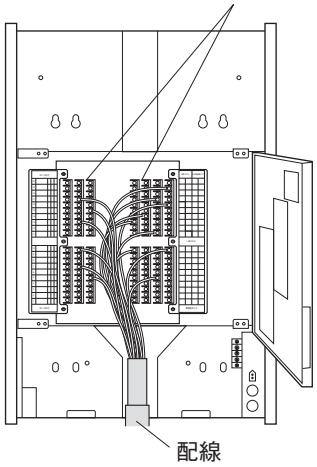
❸壁面からの配管や配線が壁面通線可能スペースからはみ出ないようにしてください。

●露出配管のとき

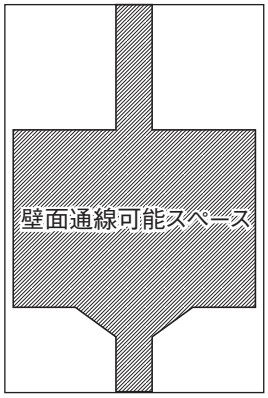
■上方向より

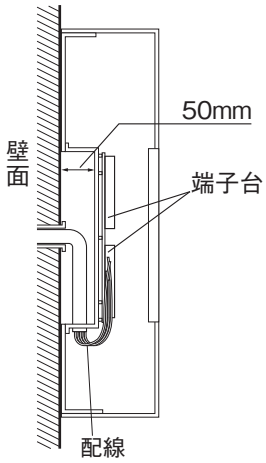


■下方向より



●埋込配管のとき





2. 上下カバーをはずします。

❶操作パネル左隅のねじ2本をゆるめる。(図 1参照)
❷操作パネルを開け、パネルのストッパーを下げロック状態にする。(図 2参照)
❸上下カバーを取り付けているねじ4本をはずす。(図 1参照)
❹上下カバーを前方向に取りはずす。(図 1参照)

図 1

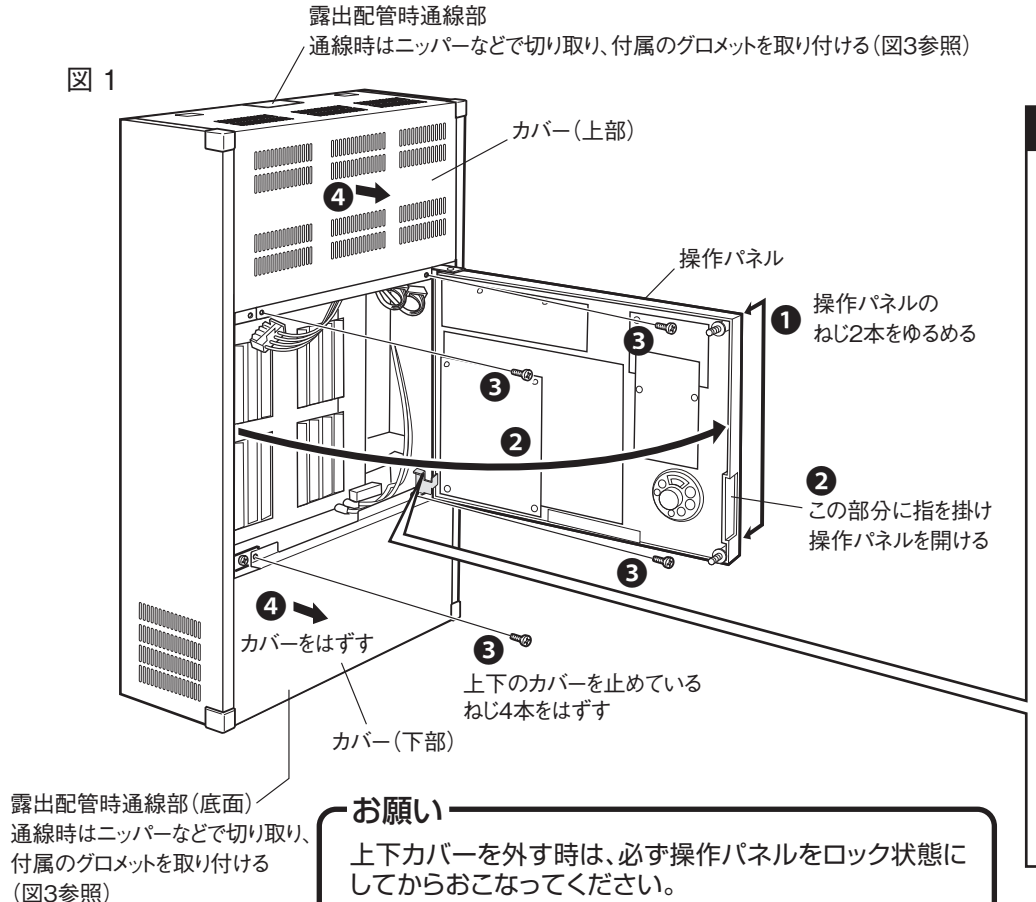
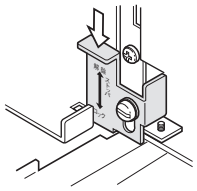


図 2

操作パネルストッパー

●ロック状態

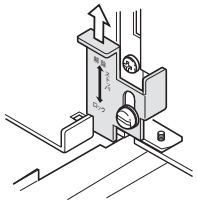
ストッパー金具を下げる



壁面に取り付けた状態では操作パネルを開き切りますと、ストッパー金具が降りロック状態になります。

●ロック解除

ストッパー金具を上げる



お願い

上下カバーを外す時は、必ず操作パネルをロック状態にしてからおこなってください。

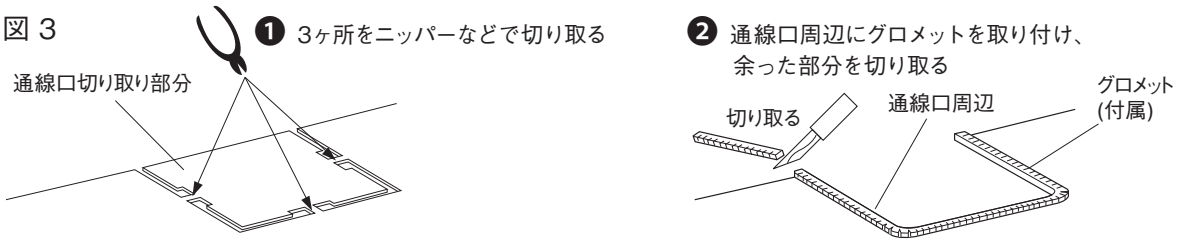
●EWA-010RB, 020RBを設置される場合は

取付前には必ずラジオチューナー部をはずしてください。
別紙ラジオチューナー部の取扱説明書をご覧ください。

グロメット(付属)について‥‥露出配管時のみ

●上方向または下方向から配管するときは、カバーの通線口切り取り部分をニッパーなどで切り取り、通線口周辺に付属のグロメットを取り付けてください。(図 3参照)
・ケーブルを傷つけないように保護するため、必ずグロメットを取り付けてください。

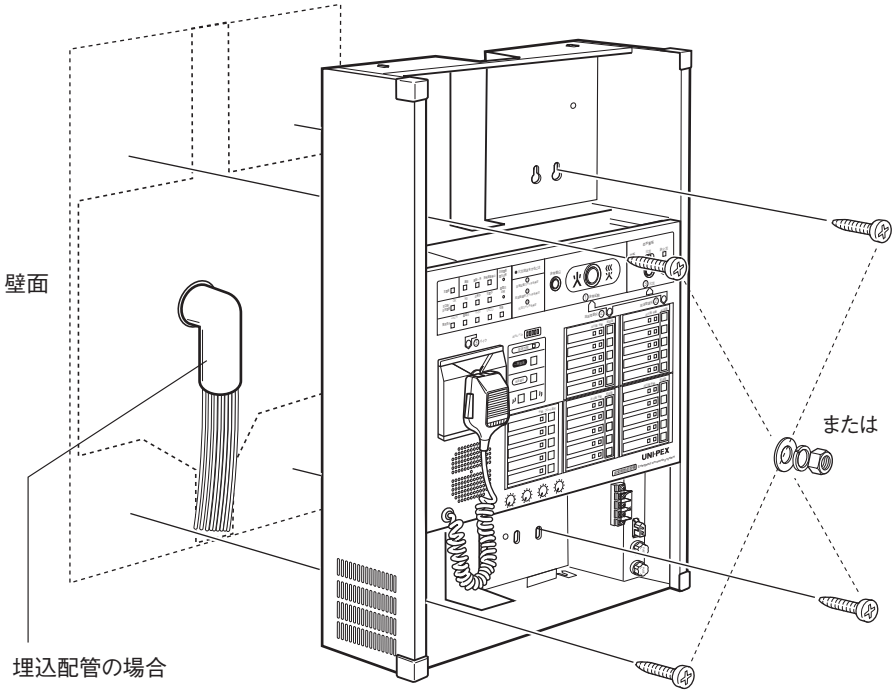
図 3



3. 本体を壁面に取り付けます。

❶操作パネルストッパーを上げロック解除し、操作パネルを閉めます。(図 2参照)
❷本体4ケ所の取付穴を通しナットや木ねじで固定します。(図 4参照)

図 4



お願い

●埋込配管の時はあらかじめケーブルを適当な長さに引き出しておいてください。
●壁取付面に凸凹がある場合は付属のスペーサーを本体背面取付部に貼り付け、本機にゆがみを生じさせないように取り付けてください。

4. 電源、スピーカー、外部機器の接続をします。

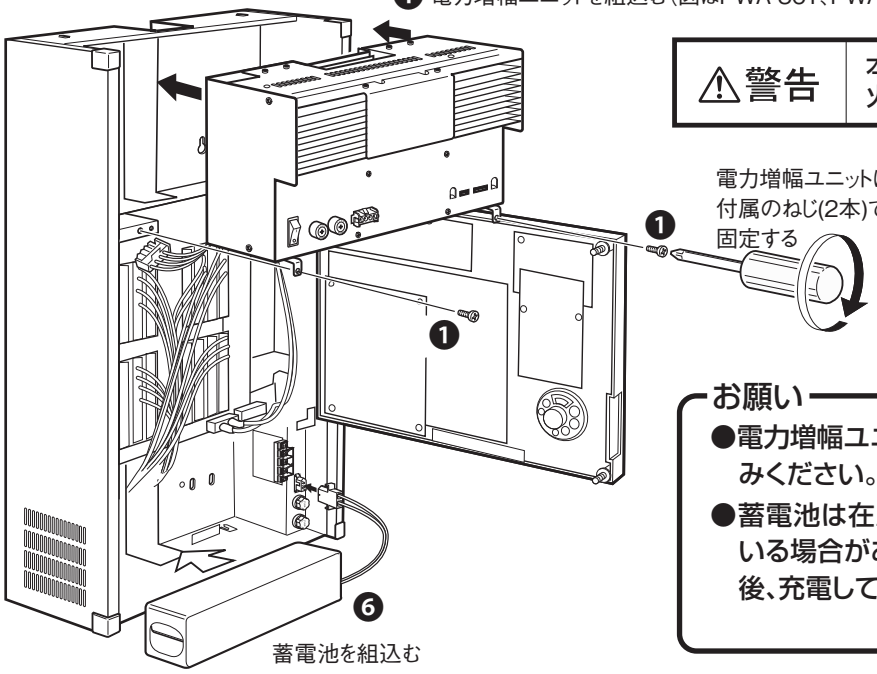
❶操作パネルを開け、パネルのストッパーを下げロック状態にする。(図 2参照)
❷各々の接続線を接続します。(13〜19ページ)

設置のしかた

5. 電力増幅ユニット、蓄電池を取り付けます。

❶本機上部に電力増幅ユニットを組み込み、電力増幅ユニットに付属のねじ2本で固定する（図 5参照）
❷本機の電力増幅ユニット接続用コネクター（3個）をそれぞれ電力増幅ユニットに接続する。（21ページ 図 9参照）
❸電力増幅ユニットに付属のヒューズを本機のヒューズホルダーに挿入する。（21ページ 図 10参照）
❹電力増幅ユニットに付属しているラベルの蓄電池ヒューズラベル部分をヒューズホルダーの横に貼り付ける。（21ページ 図 10参照）
❺操作パネル主銘板の各欄に電力増幅ユニットに付属の各ラベルを貼り付ける。（8ページ お願いの項参照）
❻蓄電池を本機下部にのせ、蓄電池のコネクターを接続します。（図 5参照）
（各コネクターの接続、ヒューズ、電池容量の確認などに関する詳細は、21、22ページをご覧ください。）

図 5



⚠警告 本体の接続コードを傷つけない。火災、感電の原因となります。

お願い
- 電力増幅ユニットの取扱説明書もよくお読みください。
- 蓄電池は在庫環境により容量が低下している場合がありますので、本体に組み込み後、充電してからご使用ください。

6. カバーを取り付け、操作パネルを閉めます。

❶電力増幅ユニットの電源スイッチを「ON」にして、上下カバーをA B部を各々合わせ元通り取り付ける。
❷操作パネルストッパーのロックを解除し、操作パネルを閉め、元通りねじで固定する。（図 6/7参照）

図 6

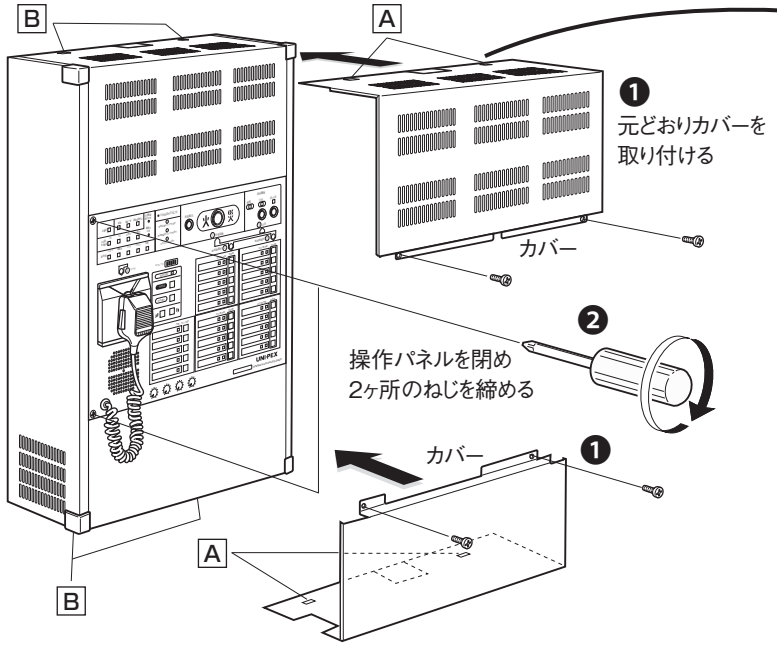
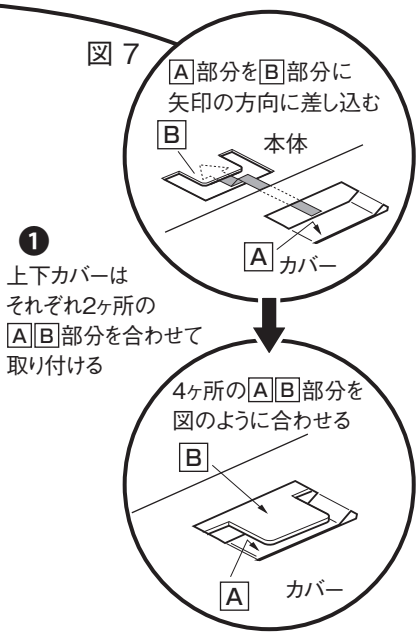


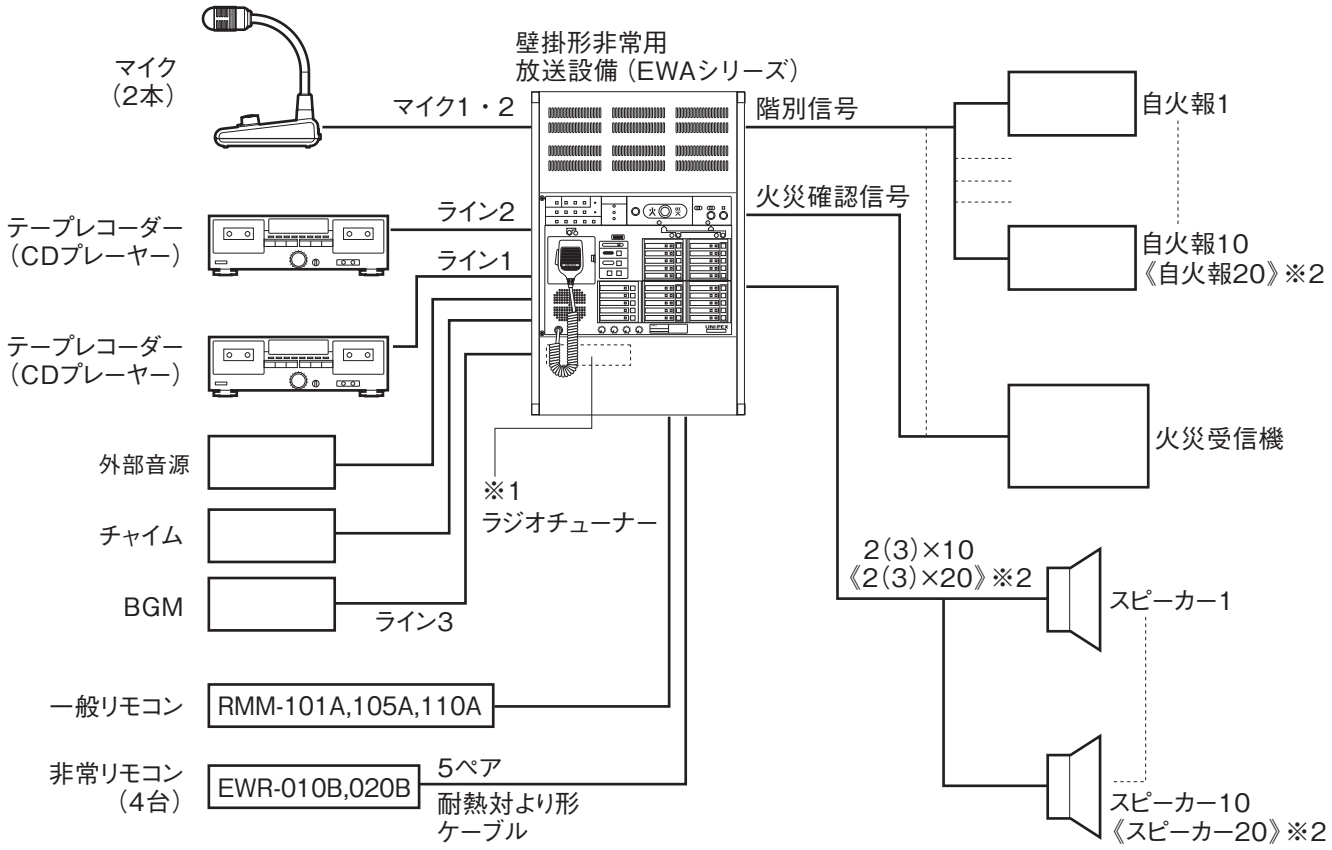
図 7



接続のしかた

■接続できる機器について（各機器との接続のしかたについては、次ページを参照してください。）

- 非常放送の内容は録音できませんのでご注意ください。
  （録音できるのはマイク1･2、ライン1･2･3、ラジオチューナーの音声のみです。）
- マイク1、ライン2は底面の外部入力ジャックにも接続できます。
  （外部入力ジャックに接続した場合は、内部入力端子の入力は“断”となります。）



※1 EWA-010RB、020RBの場合のみ　※2《　》内は20回線仕様時

重要

非常用リモコン※3との接続には、必ず耐熱対より形ケーブルを使用してください。

※3 旧製品のEWR-010, EWR-020は使用できません。

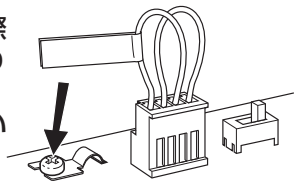
外来ノイズに対して信号線（データ線も含む）は耐熱対より形ケーブルを使用してください。
（平行線ではノイズの影響によって、信号［データ］が乱れ、リモコン回線異常などの不具合が発生する場合があります。）

接続のしかた

■接続端子の構成(各端子の接続前に、関連事項が記載されているページをよく読んでください。)

ご注意

端子基板を取り付ける際は必ずこのねじを元どおり取り付けてください。
本機が正常に動作しない場合があります。



①自火報関連設備の接続
⇨15ページ参照
<使用可能な階別信号入力端子>
・ EWA-010(R)B→EL1～EL10
・ EWA-020(R)B→EL1～EL20

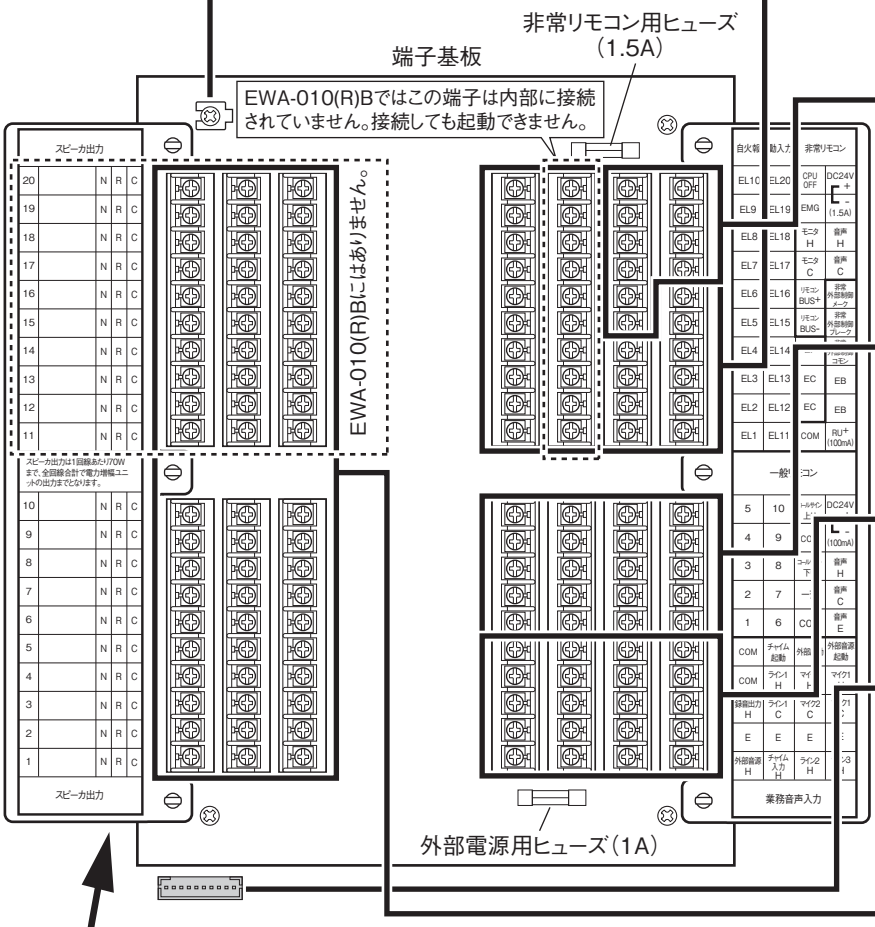
②非常業務用リモコンの接続
⇨16ページ参照

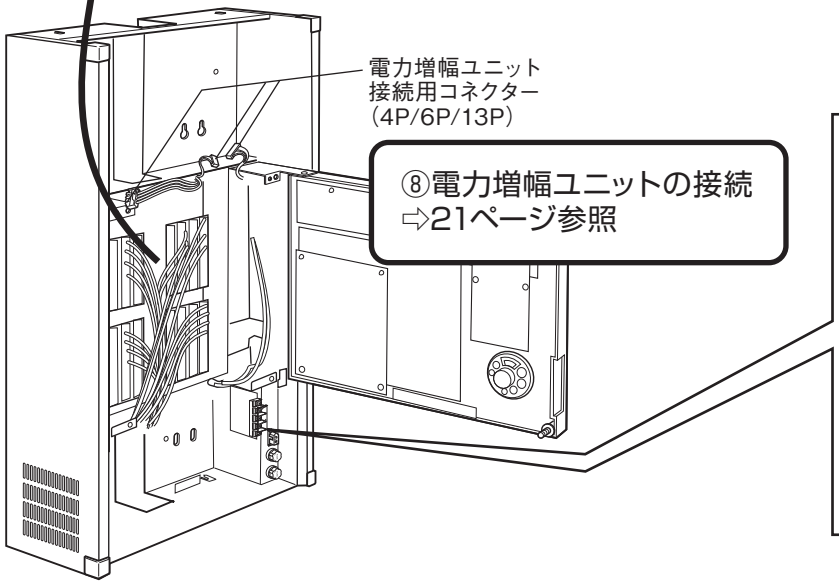
③一般リモコンの接続
⇨17ページ参照

④外部音源機器の接続
⇨18ページ参照
⑤音声入力端子の接続
⇨19ページ参照

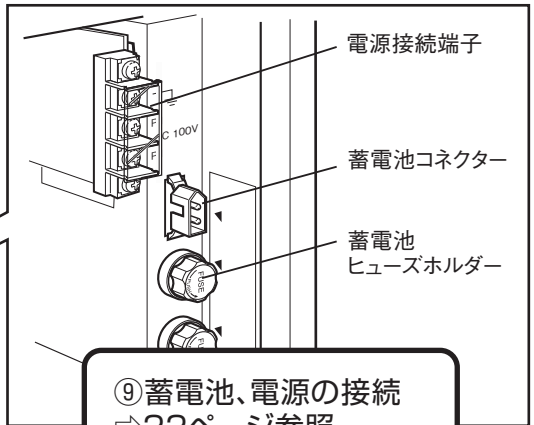
⑥汎用制御出力の接続
⇨19ページ参照

⑦スピーカーの接続
⇨20ページ参照
<使用可能なスピーカー出力端子>
・ EWA-010(R)B→1～10
・ EWA-020(R)B→1～20





⑧電力増幅ユニットの接続
⇨21ページ参照

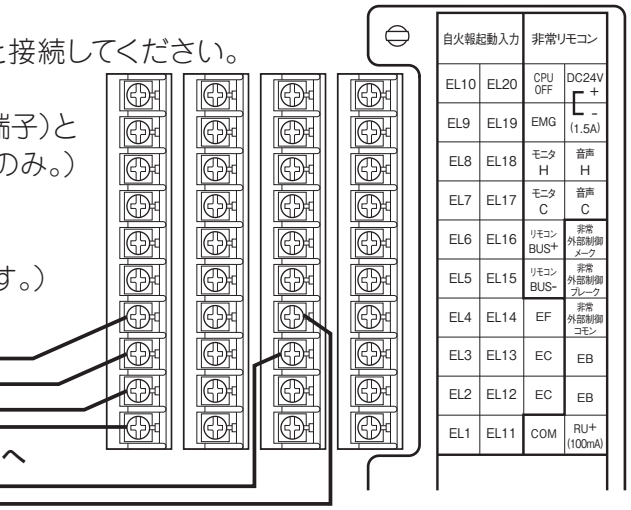


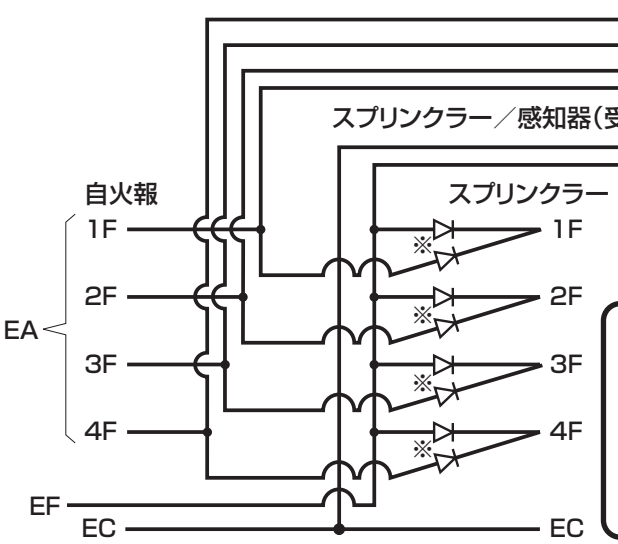
⑨蓄電池、電源の接続
⇨22ページ参照

■自火報関連設備の接続

●制御入力端子

・EL1～20(階別信号 入力端子)
→自火報(感知器)のEA1～20(階別信号出力端子)と接続してください。
・EF(火災確認信号 入力端子)
→自火報(受信機、非常電話)のEF(火災確認信号出力端子)と接続してください。(自火報に該当端子がある場合のみ。)
・EC(共通線 入力端子)
→自火報のCOM(共通線端子)と接続してください。
(各信号毎に、個別のCOM端子との接続は不要です。)





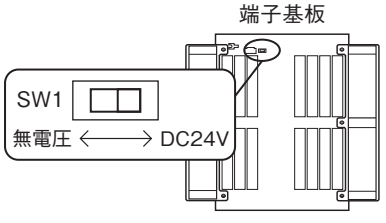
※スプリンクラーとの接続の際、直列にダイオードを入れてください。(ダイオード:1N4003相当 耐圧 100V 1A 以上)

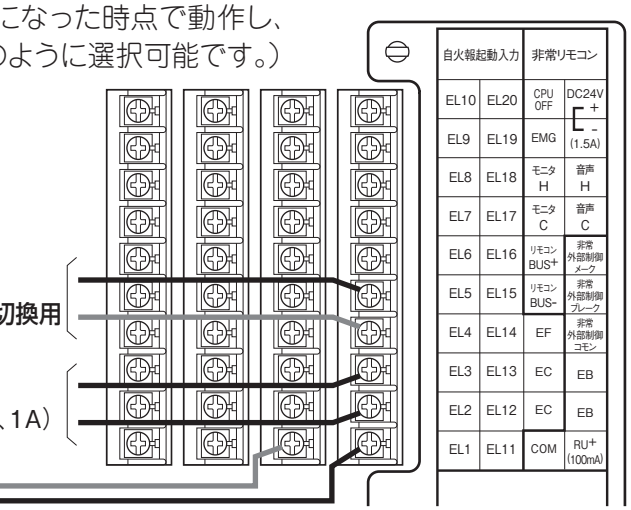
●以下の非常放送に関わる動作は書き込みによる設定が必要です。詳細は工事説明書(書き込み編)の2ページ及び関連するページを参照してください。
・出火階と連動階の指定　・階情報の指定
・タイマー設定　・一斉放送／緊急設定

●制御出力端子

・EB(誘導音装置鳴動停止信号 出力端子) 【無電圧メーク接点出力】
→自火報の該当する制御入力端子に接続してください。
(音声警報及び本体マイク放送時にメーク信号が出力されます。)
・RU+端子(リレーユニット制御用 出力端子) 【DC24V 出力】
→本機の動作時に外部制御したい機器の制御入力端子に接続してください。
(非常、業務放送のどちらでも、本機が動作している間はCOM端子との間にDC24Vが出力されます。)
・非常外部制御端子(非常制御信号 出力端子) 【出力選択式】
→非常放送時に通常の業務放送を遮断する為の機器の制御入力端子などに接続してください。
(本機が手動または自火報起動にて非常放送状態になった時点で動作し、各端子の出力形式は、端子基板上のSW1にて下表のように選択可能です。)

SW1	無電圧		DC24V	
端子	メーク端子	ブレーク端子	メーク端子	ブレーク端子
常時	オープン	ショート	0V	DC24V
非常時	ショート	オープン	DC24V	0V





・ローカルアンプカット用
BK-20、BK-22へ
・業務放送設備スピーカー切換用
BK-30へ(24V、50mA)
・EB端子
(無電圧メーク接点:30V、1A)

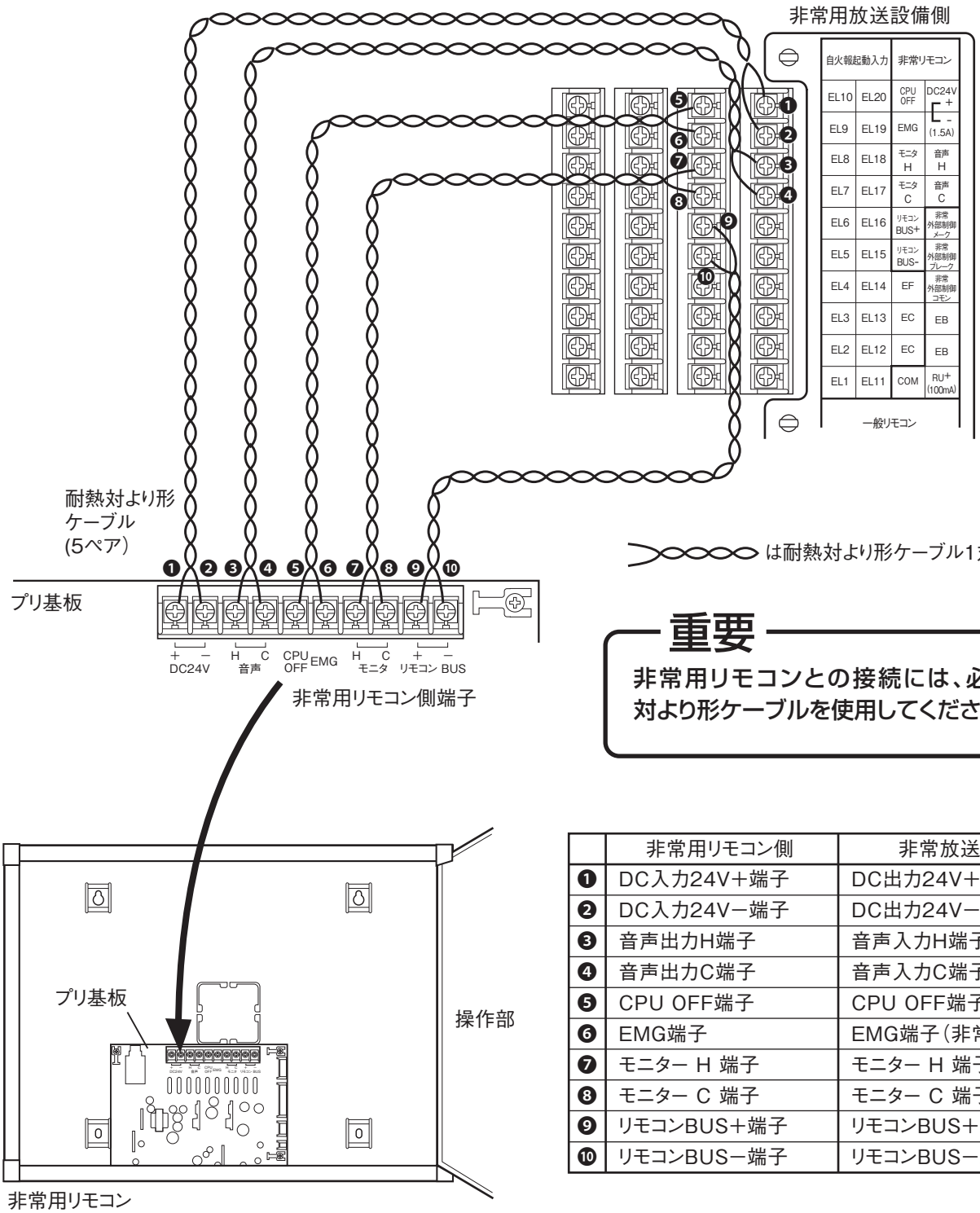
RU+端子
(24V、100mA)
本機が非常、業務どちらでも、動作すると+24Vが出力されます。

接続のしかた

■非常用リモコンの接続

接続する端子にショートバーが付いている場合は必ずショートバーをはずす。

外来ノイズに対して信号線(データ線も含む)は耐熱対より形ケーブルを使用してください。
(平行線ではノイズの影響によって、信号[データ]が乱れ、リモコン回線異常などの不具合が発生する場合があります。)



重要

非常用リモコンとの接続には、必ず耐熱対より形ケーブルを使用してください。

	非常用リモコン側	非常放送設備側
❶	DC入力24V+端子	DC出力24V+端子
❷	DC入力24V−端子	DC出力24V−端子
❸	音声出力H端子	音声入力H端子
❹	音声出力C端子	音声入力C端子
❺	CPU OFF端子	CPU OFF端子
❻	EMG端子	EMG端子(非常起動端子)
❼	モニター H 端子	モニター H 端子
❽	モニター C 端子	モニター C 端子
❾	リモコンBUS+端子	リモコンBUS+端子
❿	リモコンBUS−端子	リモコンBUS−端子

■一般リモコンの接続

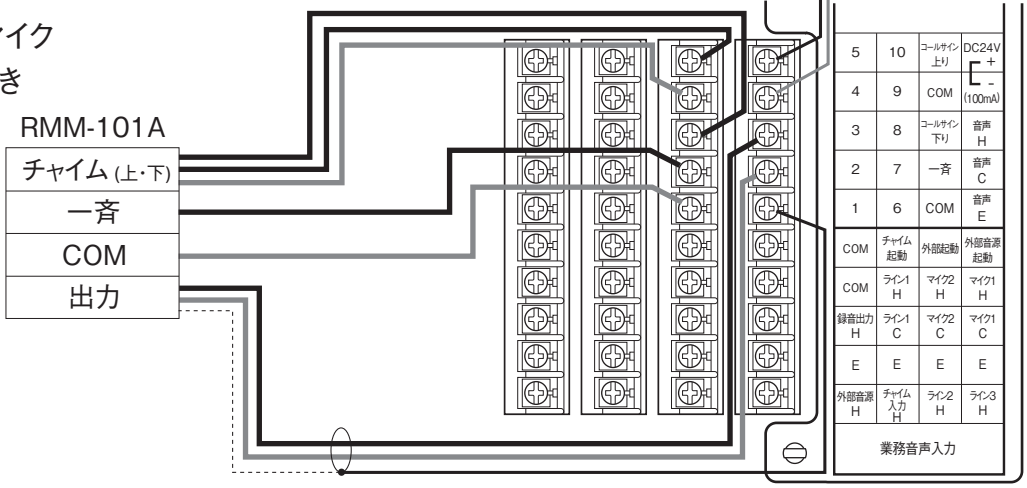
接続する端子にショートバーが付いている場合は必ずショートバーをはずす。

●一般リモコン接続例

本機よりRMMシリーズに電源を供給される場合はこの端子をご使用ください。→

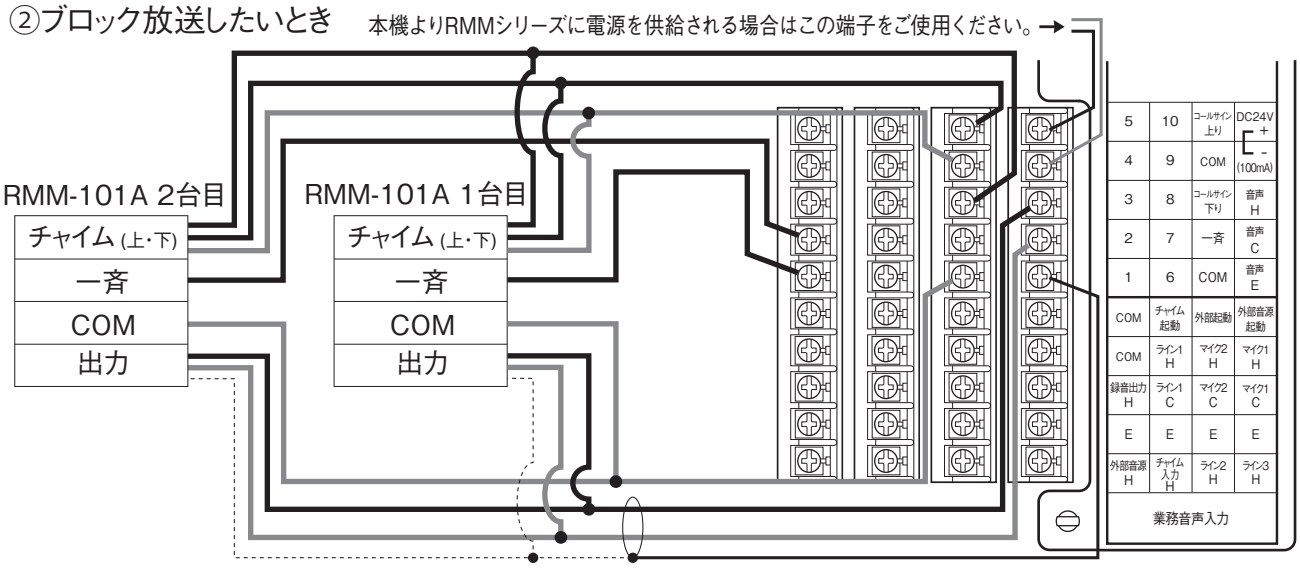
1. 単局用リモコンマイク

①一斉放送したいとき



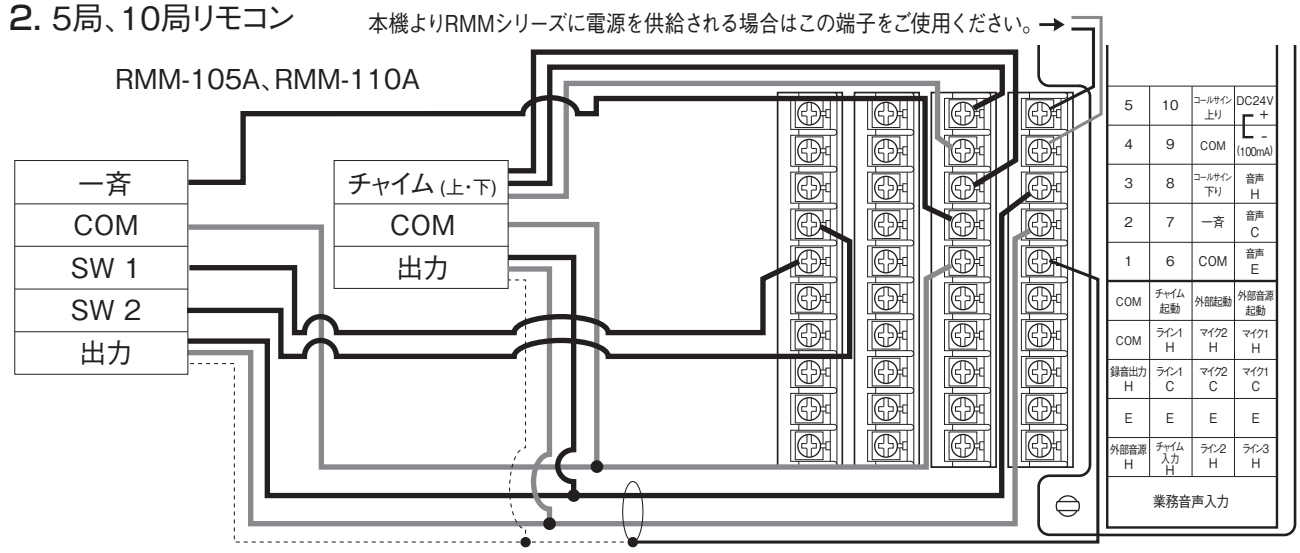
②ブロック放送したいとき

本機よりRMMシリーズに電源を供給される場合はこの端子をご使用ください。→



2. 5局、10局リモコン

本機よりRMMシリーズに電源を供給される場合はこの端子をご使用ください。→



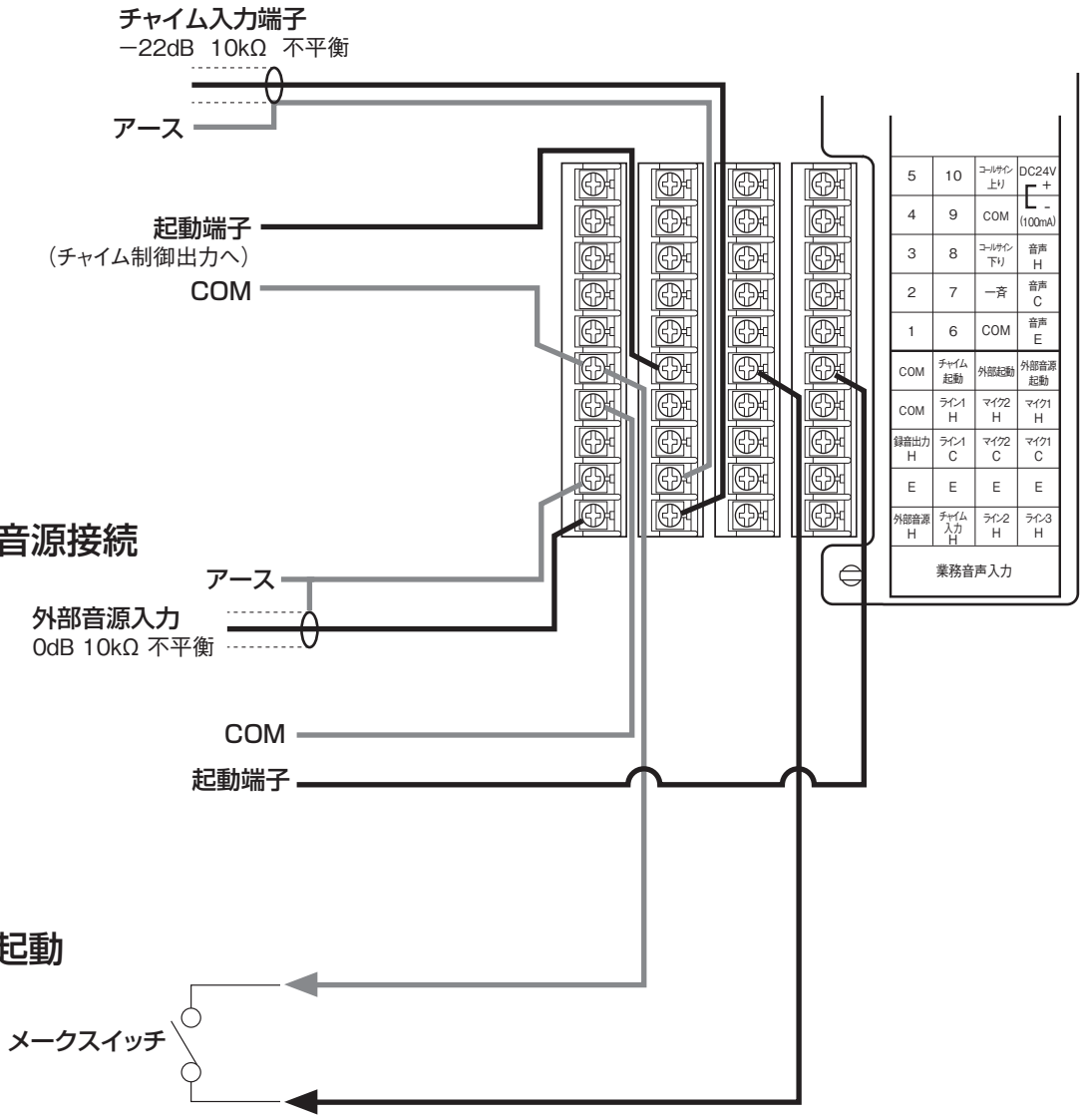
●ブロック放送及び一般リモコンからの放送については、書き込みによって放送箇所の設定が可能です。詳細は工事説明書（書き込み編）の2ページ及び関連するページを参照してください。

接続のしかた

■外部音源機器の接続

接続する端子にショートバーが付いている場合は必ずショートバーをはずす。

●チャイム接続



●外部音源接続

●外部起動

各起動入力と対応する音声入力

起動入力	選択される音声入力
一般リモコン1～10及び一斉	一般リモコンの音声入力
チャイム起動	チャイム入力
外部起動	マイク1、マイク2、ライン1、ライン2、ライン3、 ラジオユニット（ラジオ付きの場合）
外部音源起動	外部音源

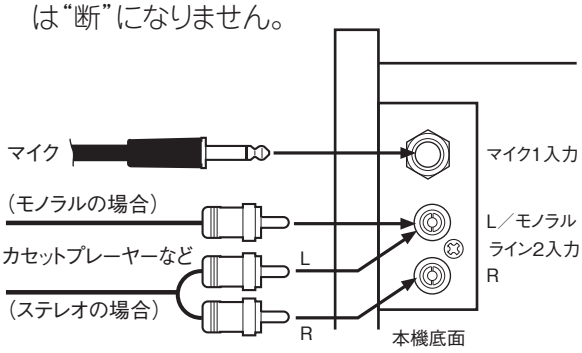
●各音声入力は、書き込みによって放送先の設定が可能です。
詳細は工事説明書（書き込み編）の2ページ及び関連するページを参照してください。

■音声入力端子の接続

接続する端子にショートバーが付いている場合は必ずショートバーをはずす。

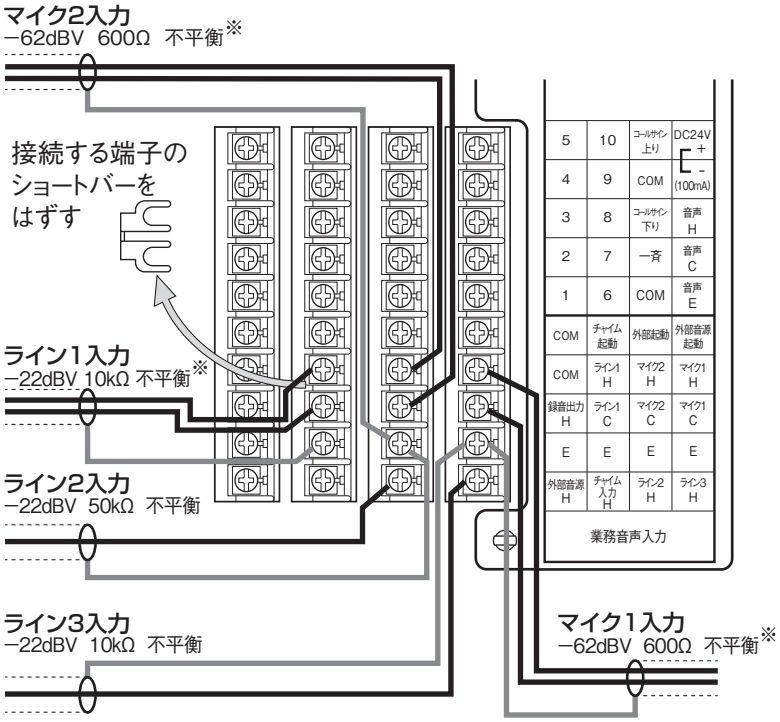
●マイク1／マイク2、ライン1／ライン2／ライン3入力

- 各ショートバーをはずして使用します。
- マイク1／ライン2は端子部のほかに外部ジャック(本機底面)があります。
  外部ジャックに差し込むと、外部ジャック入力が優先され、内部端子入力は“断”になります。
- ライン2にモノラル機器を接続される場合は、「L／モノラル」側ジャックに接続してください。「R」側ジャックに接続しますと内部端子入力は“断”になりません。



ライン入力1 ライン入力2	マイク放送中、ミュート可能。

※マイク1、マイク2、ライン1及び一般リモコン入力にはオプションの平衡トランスが取付可能です。



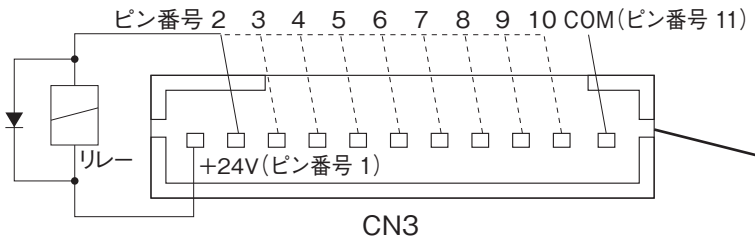
■汎用制御出力の接続

- オープンコレクタ出力
  (オープンコレクタ電流50mA)(耐圧35V)
- リレーなどを制御します。

リレー動作させる場合

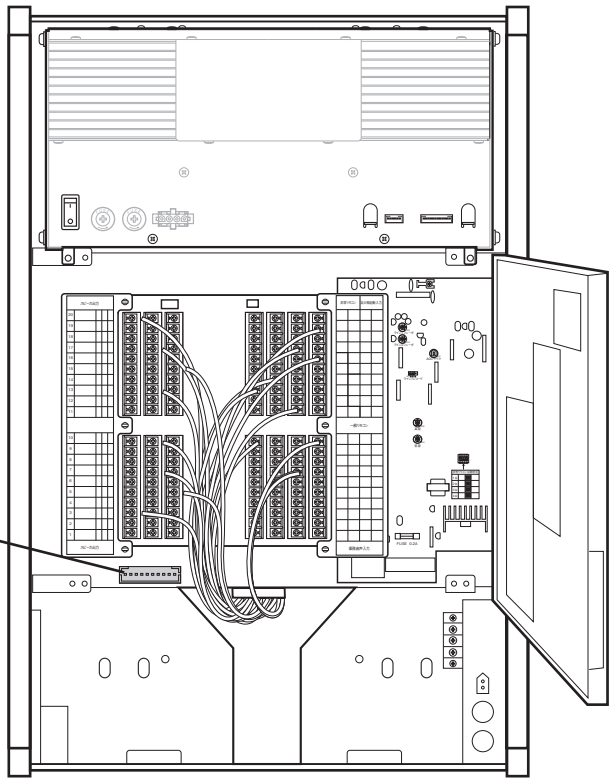
- 十24Vと2〜10間にリレーを接続します。

※このコネクターから直接機器外に線を引き出さないでください。



CN3
汎用制御出力コネクター
(11P)

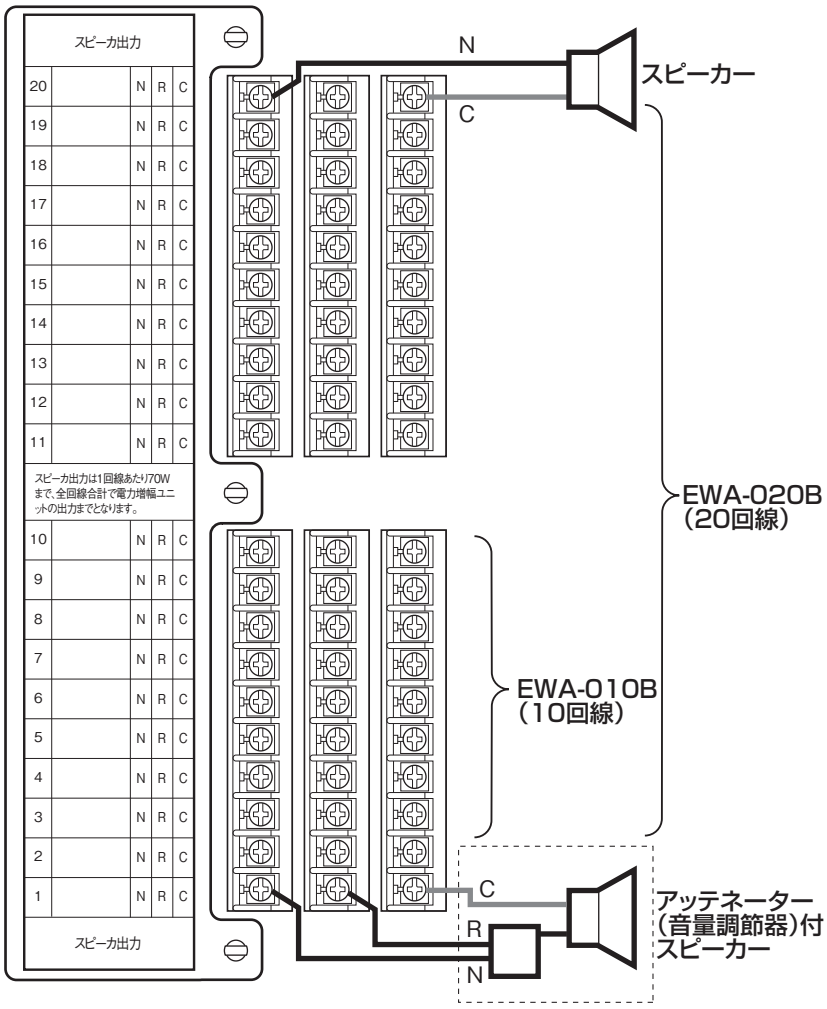
- 接続方法については販売店にご相談ください。



●汎用出力は書き込みによって動作条件の設定が可能です。
詳細は工事説明書(書き込み編)の2ページ及び関連するページを参照してください。

接続のしかた

■スピーカーの接続



配線方法について

アッテネーター(音量調節器)付のスピーカーを使用する際は、必ず3線式の配線をおこなってください。
(スピーカーに直接接続する際は、N端子及びC端子のみを使用した2線式でもかまいません。)

【スピーカー出力端子 名称】
N(通常)／R(緊急)／C(共通)

スピーカーのW数について

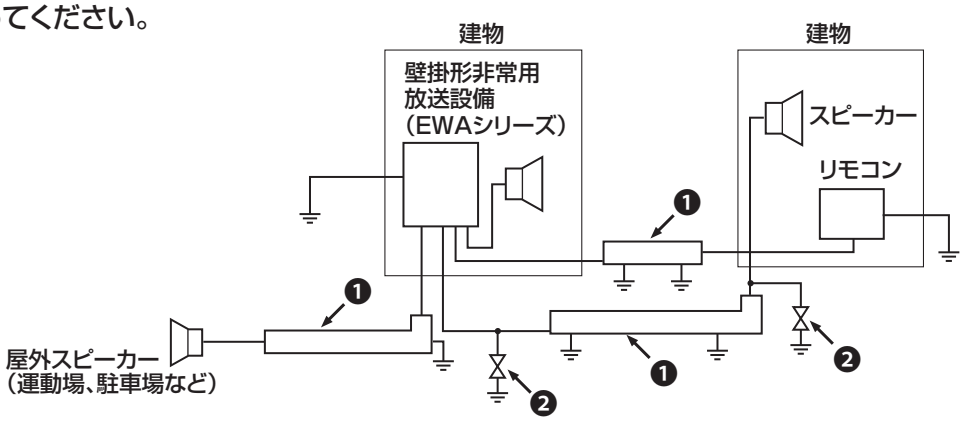
スピーカーを接続する時は、1回線あたりの最大W数は70Wでご使用ください。電力増幅ユニットの出力が60Wの場合は1回線当たりの最大は60Wになります。

電力増幅ユニット出力	1回線あたりの最大W数
60W	60W
120W	70W
240W	70W
360W	70W

注1
70系で使用する時は、上記表の最大W数、合計W数は1／2になります。

外来サージに対する対策

雷の多い地域でご使用になる場合は、下図に示すように❶金属配管、❷サージアブソーバーなどの対策をおこなってください。



❶金属配管について
建物間にわたる配線などで配線が露出しないように金属配管をしてください。
外来ノイズに対して信号線(データ線)は、耐熱対より形ケーブルを使用してください。
(平行線では、ノイズの影響によって信号[データ]が乱れ、リモコン回線異常などの不具合が発生する場合があります。)

❷サージアブソーバーについて
機器内にはスピーカー線、データラインなどには外来サージに対してサージアブソーバーを設けていますが、特に雷の多い場所では現地で金属配管をおこなうときに、さらにサージアブソーバーを設けてください。

■電力増幅ユニット(別売)の接続

❶本体内部より配線されている3個の電力増幅ユニット接続用コネクターをユニットに接続する。(図 9参照)
❷電力増幅ユニットに付属のヒューズを本機のヒューズホルダーに挿入する。(図 10参照)
❸電力増幅ユニットに付属している蓄電池ヒューズラベルをヒューズホルダーの横に貼り付ける。(図 10参照)
❹蓄電池を本機下部にのせ、蓄電池のコネクターを接続します。(22ページ「蓄電池、電源の接続」参照)
❺電力増幅ユニットに付属の各ラベルを操作パネル主銘板と下部カバーの日常点検ラベルの各欄に貼り付ける。
(8ページの「お願い」/図 8参照)

図 7

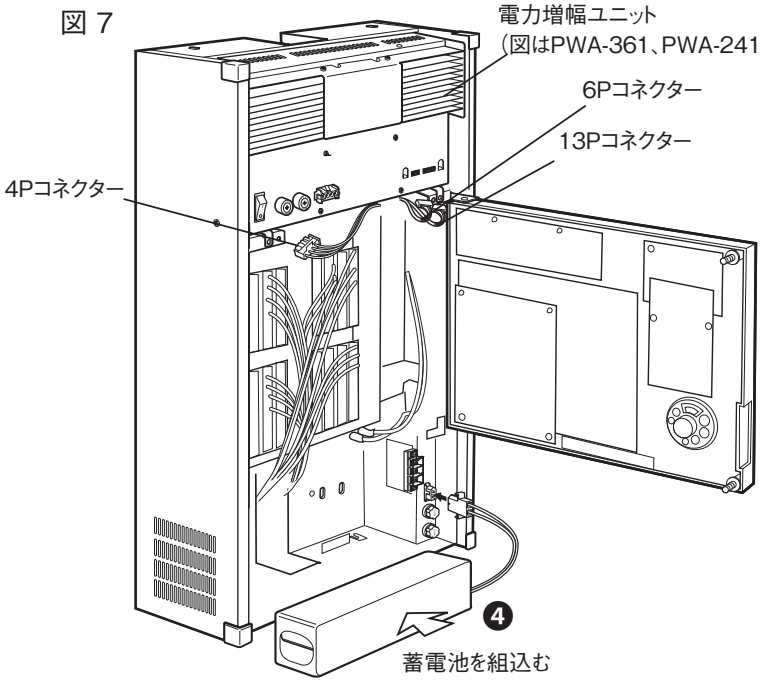
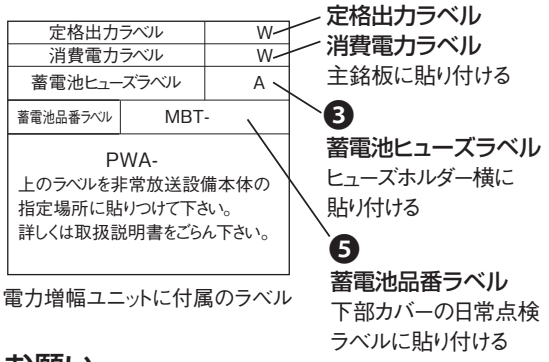


図 8



お願い

- **電力増幅ユニットの取扱説明書もよくお読みください。**
- **蓄電池は在庫環境により容量が低下している場合がありますので、本体に組み込み後、充電してからご使用ください。**

図 9

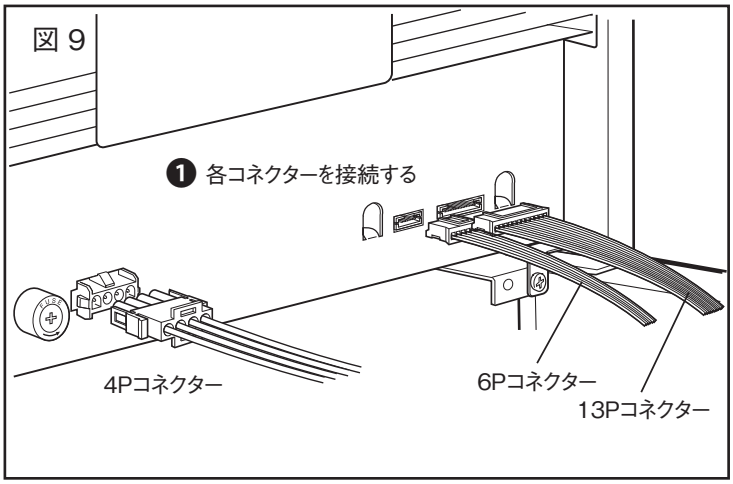
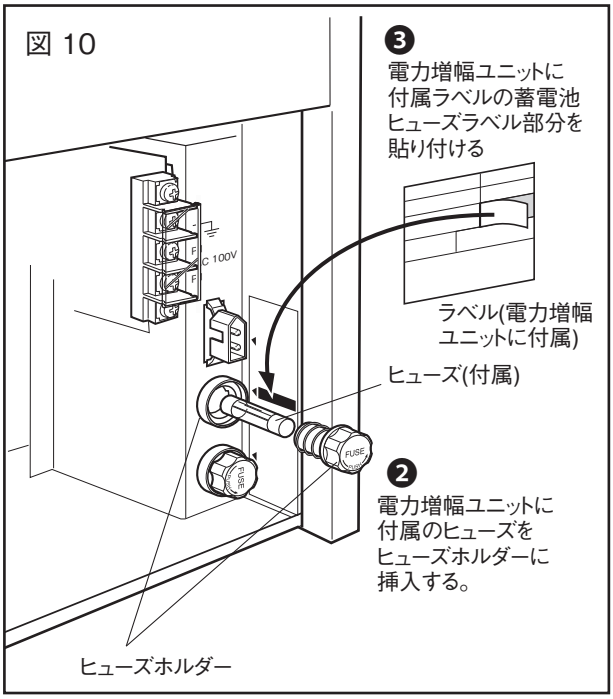


図 10



電力増幅ユニットと蓄電池(別売)の組み合わせ

出力(W)	電力増幅ユニット	ニカド蓄電池	蓄電池ヒューズ(付属)
60W	PWA-060	MBT-060	10A※
120W	PWA-120	MBT-120	15A※
240W	PWA-241	MBT-240	25A※
360W	PWA-361	MBT-240	30A※

※電力増幅ユニットの出力により付属しているヒューズの容量が異なります。

⚠警告	決められたヒューズを使う。 火災、感電の原因となります。

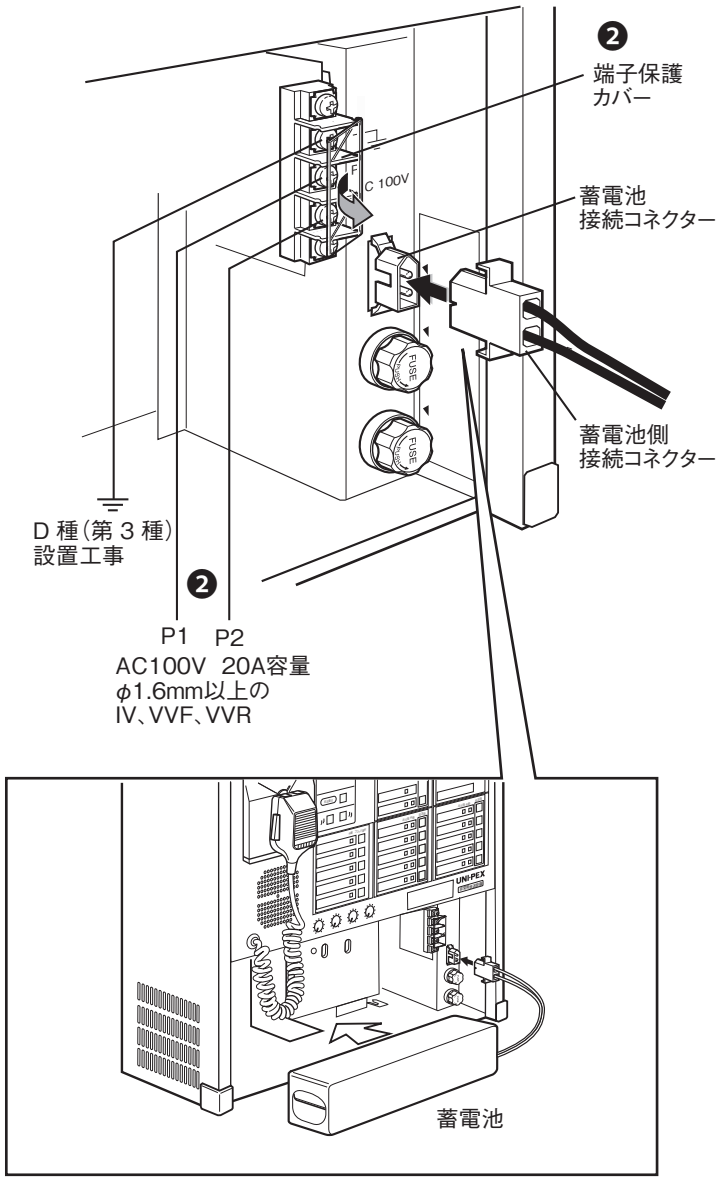
接続のしかた

■蓄電池、電源の接続

❶接続の前に必ず、分電盤のスイッチを「切」にしてください。
❷電源接続端子保護カバーをはずし、電源線を接続します。
❸接続後カバーを取り付けてください。
❹接続後、分電盤のスイッチを「入」にします。
❺蓄電池からのコネクターを接続します。
❻電力増幅ユニットの電源を「入」にします。
❼本体の各スイッチが「切」の状態になっていることを確認してから次のことを点検してください。
(1)主回路、非常電源電圧は、OK表示灯が点灯していますか?
(2)充電中表示灯は点灯していますか?
(3)主電源表示灯は点灯していますか?

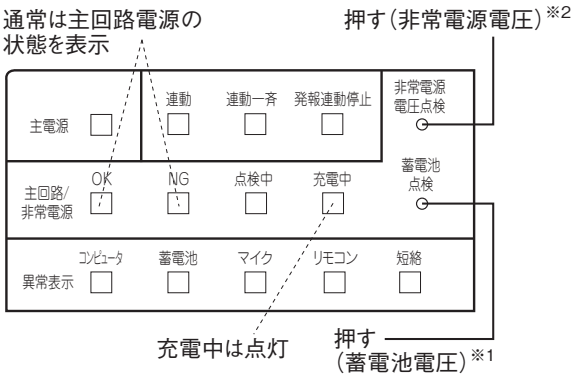
⚠注意

電源容量は20A以上確保し、他の配線とは別にし、常時ON状態にしてください。



●蓄電池を接続した後は充電状態を確認してください。

●点検スイッチを押したとき、または押さない状態でも、主回路／非常電源のOK表示灯が点灯していたら正常です。



※1 押すと約10秒間、充電中表示は消灯
※2 押している間、充電中表示は消灯

●蓄電池点検スイッチ押下時、蓄電池電圧が20V以下の場合、主回路／非常電源のNG表示灯と蓄電池異常表示灯が点灯し、警告音(ピー)がなります。

●充電されていない蓄電池の充電時間は、60時間かかります。

お願い

●蓄電池は在庫環境により容量が低下している場合がありますので、本体に組み込み後、充電してからご使用ください。

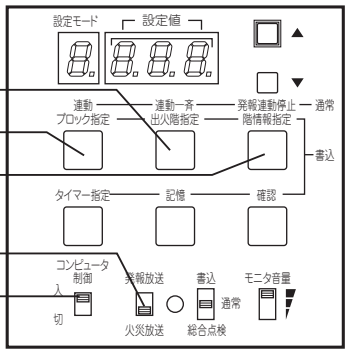
お願い

●操作パネル、上下カバーを開けるときは、必ず分電盤のスイッチを切ってからおこなってください。
●操作パネル、上下カバーの開けかたは10ページをご参照ください。

■設定・調整

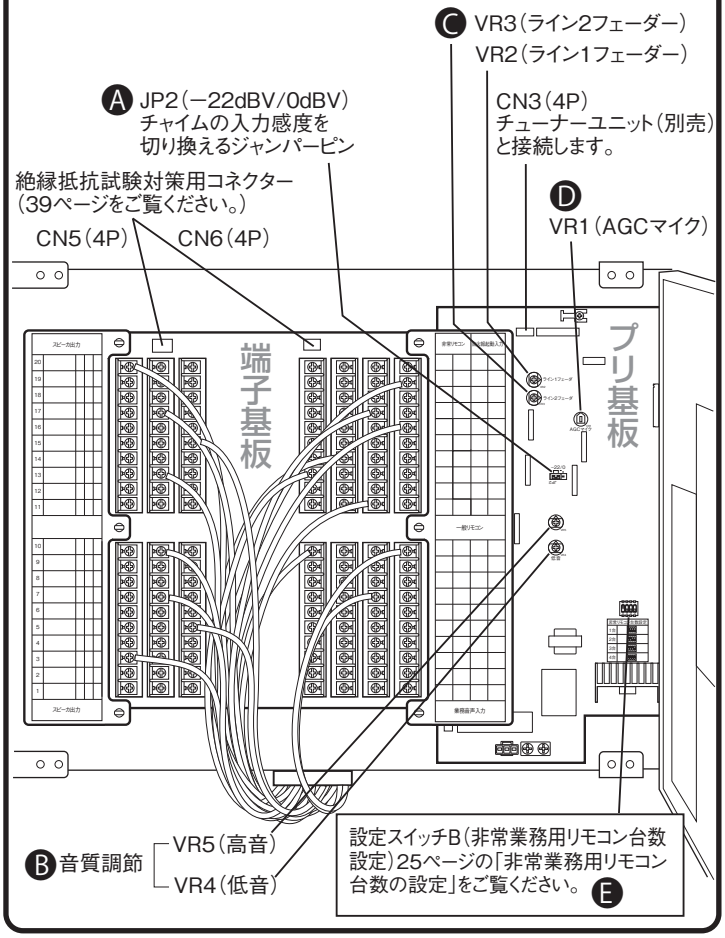
●本体マイクドア内のスイッチ設定

●連動一斉のとき押す。(連動一斉表示灯点灯)
●連動のとき押す(連動表示灯点灯)
●発報連動／発報連動停止の切り換え
●発報放送または火災放送を選択し、書き込み終了後、固定金具で固定する。(書き込み編6ページ)
●「入」にする。



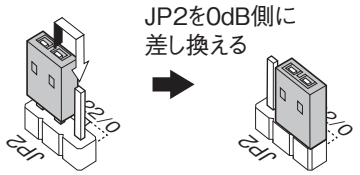
●内部基板上の各種設定・調整

内部のプリ基板と端子基板の説明



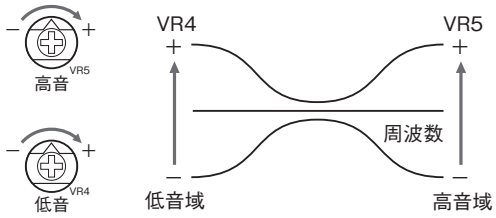
Ⓐチャイムの入力レベルを0dBVに換えるとき

基板上のJP2を「0dBV」側に移します。
(出荷時−22dBV)



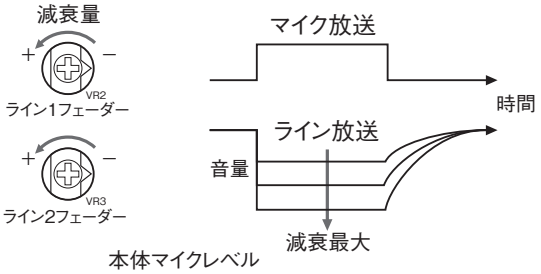
Ⓑ音質調整(トーンコントロール)

VR5→高音
VR4→低音
出荷時フラット



Ⓒマイク優先回路

マイク1、マイク2の放送中は、ライン1、ライン2の音声が減衰します(ミュート)。その減衰量を調節します。
VR2→ライン1の減衰量(矢印方向で減衰量大)
VR3→ライン2の減衰量(矢印方向で減衰量大)

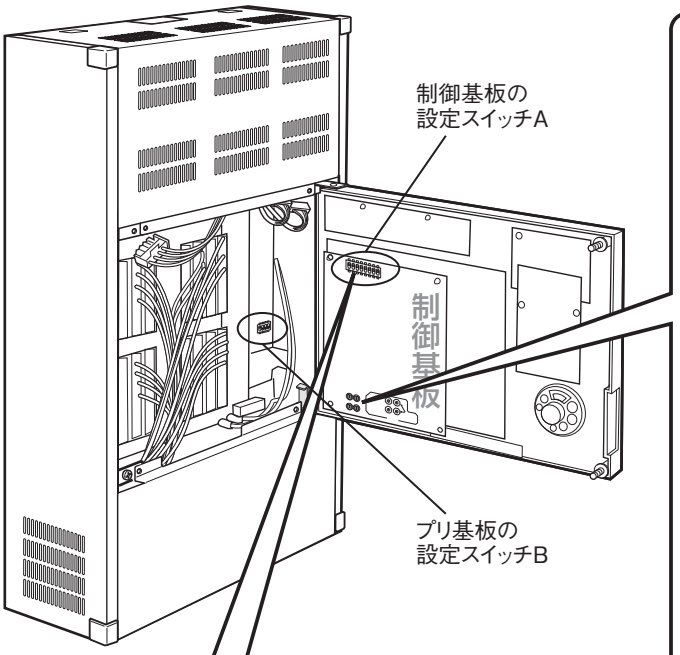


Ⓓ本体マイクの音量調節

VR1(基板上の表示:AGCマイク)を反時計方向に回して、マイク入力を減衰させ、本体マイクの音量を調節することが可能です。

⚠注意 非常放送時の音声レベルも変化しますので、ご注意ください。

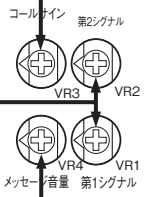
接続のしかた



●音声合成メッセージ、チャイム音量

●コールサイン音量調節(VR3)

コールサイン音量を可変したいときに使用します。時計方向に回すと増加します。



VR1/VR2

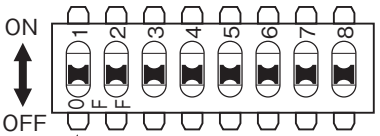
調整済みのため触らないでください。(第1、第2シグナル音が変わってしまいますのでご注意ください。)

●メッセージ音量調節(VR4)

メッセージ音量を可変したいときに使用します。時計方向に回すと増加します。

●手動起動の手動連動・個別手動の設定

制御基板の
設定スイッチA



ON ：個別(階別)手動
OFF：手動連動
(出荷時)

●手動連動

- 非常起動スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、押したスイッチが連動階書き込みされていればその階全てと直上階を含む連動階の作動表示灯が点灯し、点灯したスピーカー回線が放送可能状態となります。
- 押したスイッチが連動階書き込みされていなければ押した階の作動表示灯のみ点灯し、点灯したスピーカー回線が放送可能状態となります。
- 手動連動時の放送復旧後や階別信号入力後は個別(階別)手動となります。(放送復旧には個別スイッチ復旧も含みます)
- 書き込みについては、工事説明書(書き込み編)の6〜7ページをご覧ください。

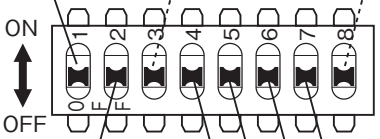
●個別手動(階別)

非常起動スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、押した階の作動表示灯のみ点灯し、点灯したスピーカー回線が放送可能状態となります。

●非常時手動連動階を非連動にするとき(出荷時は連動)

3・8はいずれの場合もOFF

制御基板の
設定スイッチA



1

手動非常起動時の連動階連動・非連動切換
ON：非連動(階別)　OFF：連動階連動
連動階連動時でも放送復旧後は、階別となります。

●データの初期化(書き込み内容が消去されます)

2

ON：データの初期化※　OFF：通常はOFFにします。
このスイッチを“ON”にし、AC電源を投入します。投入後、数秒で“ピーッ”という音がして初期化が完了します。
※書き込み内容を工場出荷時の状態に戻したいときにだけ、おこなってください。データを初期化したら、以下の操作をおこなってください。

1. このスイッチを“OFF”に戻します。
2. 本体マイクドア内にあるコンピューター制御スイッチを“切”にしてから“入”にします。

●70系に変更するとき

⚠警告

変更するときは、必ず分電盤のスイッチを切り、蓄電池をはずしてからおこなってください。感電の原因となります。

PWA-241・PWA-361の場合

●本機を70系に変更するときは、電力増幅ユニット内部の基板上のコネクターの接続を100系側より70系側に変更してください。(電力増幅ユニットの取扱説明書参照)

●70系に変更すると使用できる合計W数が1/2になります。詳しくは、取り付ける非常用放送設備の工事説明書をご覧ください。

PWA-060・PWA-120の場合

●本機を70系に変更するときは、電力増幅ユニット右側面の基板上のジャンパー線を100系側より70系側に付け換えてください。(電力増幅ユニットの取扱説明書参照)

●70系に変更すると使用できるW数が100系の場合と比べ1/2になります。詳しくは、20ページの「スピーカーのW数について」をご覧ください。

●スピーカー回路分割装置を使用するとき

7

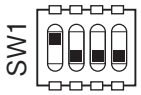
スピーカー回路分割装置を使用するときは、このスイッチを“ON”にします。
(分割できるのは2分割までです。)

●非常用リモコン台数の設定

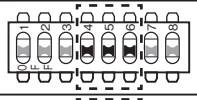
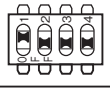
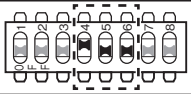
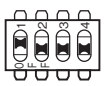
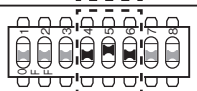
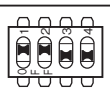
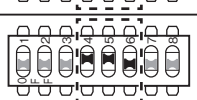
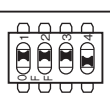
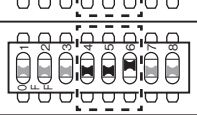
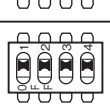
4/5/6

本機に接続する非常用リモコン(EWR-010A/010B/020A/020B)の台数に応じて設定します。
また、この設定は、本機内部のプリ基板の設定スイッチBでも設定する必要があります。
非常リモコンを複数台接続する場合、非常リモコン側でも設定が必要です。
(非常リモコンの工事説明書9ページ参照)

プリ基板の
設定スイッチB



非常用リモコン台数設定	
1台	
2台	
3台	
4台	

接続リモコン台数	制御基板の 設定スイッチA	プリ基板の 設定スイッチB
0台 (出荷時の設定)		
1台		
2台		
3台		
4台		

※リモコン台数設定を上表以外に設定しますと、リモコン異常表示灯が点滅します。

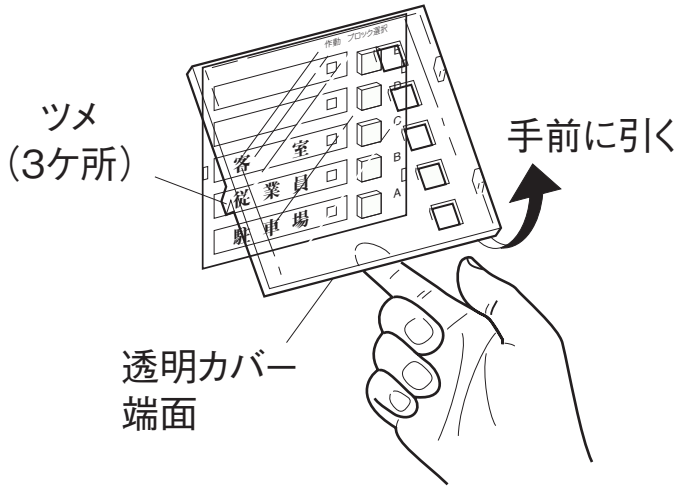
表示カードの使いかた

※放送階選択スイッチおよびブロック選択スイッチには、各スピーカーの設置場所やブロック指定した場所などを記入する表示カードが付いています。

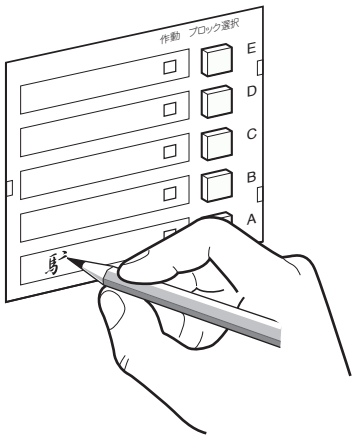
〈表示カードへの記入方法〉

●透明カバーの上下の端面に指をかけ、手前に引いて、透明カバーを外します。

●カバーの下の表示カードにスピーカーの設置場所やブロック指定した場所などを記入します。



●表示カードの記入は、鉛筆でおこなうと、消しゴムで簡単に消えますので、訂正や変更が容易です。



●記入後は透明カバーをもとの位置に取り付けてください。

●透明カバーのツメ部分は無理に力を加えると折れてしまいますので、取り付け、取り外し時にはご注意ください。

設置時の点検

重要

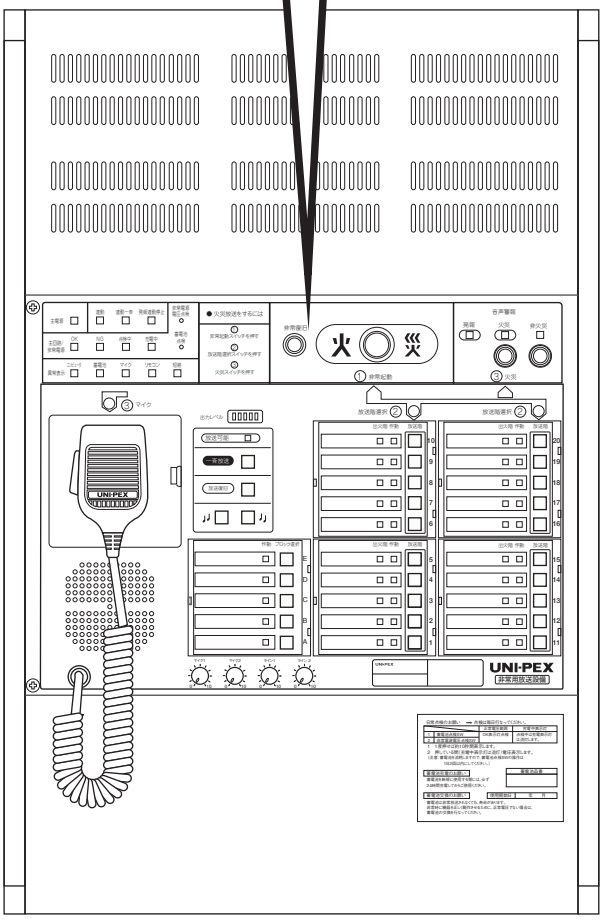
書込作業まで完了したら、通常運用に入る前に次ページ以降に記載されている手順で、非常放送および業務放送が設定通りに放送されることを確認してください。
点検作業を開始する前に以下の内容を確認してください。

1. AC電源は接続しましたか? 分電盤のスイッチは「入」になっていますか?
2. 蓄電池のコネクターは接続されていますか?
3. 電力増幅ユニットの電源スイッチは「ON」になっていますか?
4. スピーカーの配線は終わりましたか?
5. リモコンマイクなど他の機器の接続は終わりましたか?

停電時の確認

非常放送時、AC電源を切り、蓄電池動作に切り換わることを確認してください。

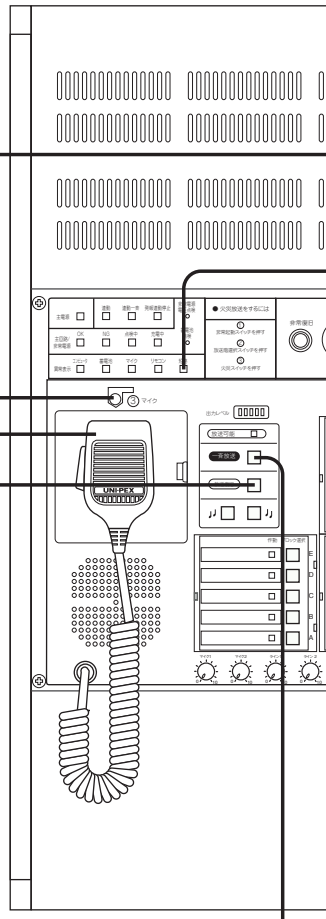
●運用を開始する前に正しく動作するか点検してください。
●定期的に保守点検をおこなってください。
（36～39ページの保守点検のしかたをお読みください。）



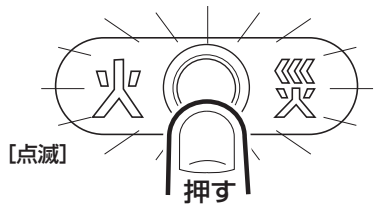
設置時の点検

■動作点検(非常放送)

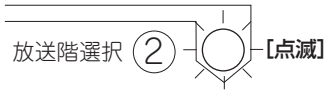
• 各設定状態における動作は、取扱説明書または、操作説明書をご覧ください。



1 手動で非常起動スイッチを押します。火災灯が点灯し、放送階選択指示灯が点滅しますか?



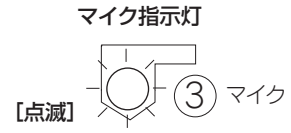
• 手動のとき押すと、火災灯が点灯します。



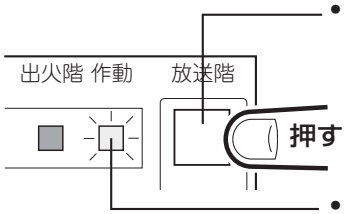
• 非常時、オレンジ色に点滅します。
• 点滅しているとき、放送階選択スイッチを押すと点灯にかわります。

2 マイク指示灯が点滅していますか?

• 非常時、オレンジ色に点滅します。



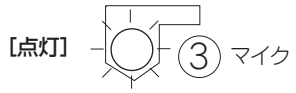
3 放送階選択スイッチを1ヶ所押します。押された階の作動表示灯が点灯し、音声警報放送(発報放送または火災放送)が流れますか?



• 放送したい階の放送階選択スイッチを押します。(作動表示灯が緑色に点灯)
• 放送階選択スイッチを押すと緑色に点灯します。
• 火災灯が点滅または、点灯します。

4 本体マイクをはずし、アナウンスします。本体マイクスイッチを押すと、マイク指示灯が点灯し、音声警報放送が止まり、アナウンスが*3*で押された階に流れますか?

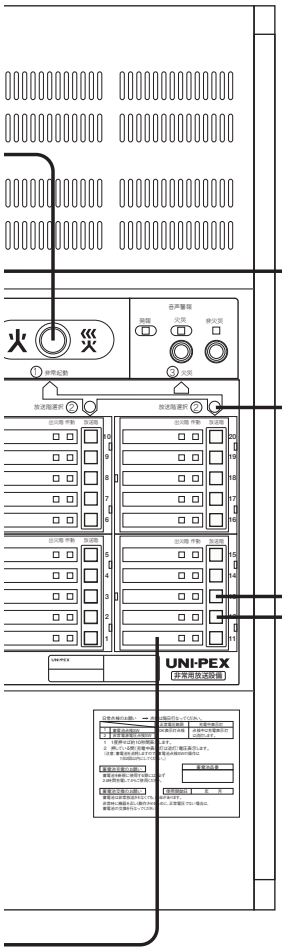
• スイッチを押しながら放送すると点灯します。



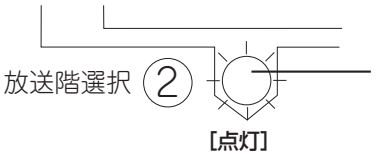
5 一斉放送スイッチを押し、アナウンスします。すべての作動表示灯が点灯し、全館にアナウンスが流れますか?

6 放送終了後は、放送復旧スイッチを押します。作動表示灯が消えスピーカー放送も切れますか?

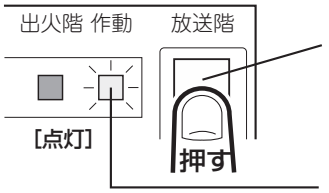
※第2タイマーにより一斉火災放送に移行した後は、放送復旧スイッチは無効となります。非常復旧スイッチを押して*1*からやりなおしてください。



7 放送階選択指示灯が点滅し 、任意の放送階選択スイッチを2、3ヶ所押します。
放送階選択指示灯が点灯し、作動表示灯が点灯しますか?



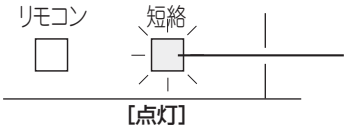
• 点滅しているとき、放送階選択スイッチを押すと点灯にかわります



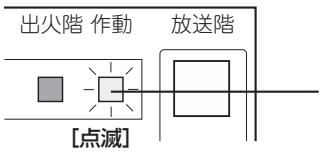
• 放送したい階の放送階選択スイッチを押します。(作動表示灯が緑色に点灯します。)

• 放送階選択スイッチを押すと緑色に点灯します。

8 7で押した階のいずれか1つのスピーカー回線を短絡させます。(火災または非火災放送を出力してください)短絡表示灯が点灯し、短絡させた階の作動表示灯が点滅しますか?



• スピーカー回線が短絡すると赤色に点灯します。



• 短絡した場所の作動表示灯が緑色に点滅します。

• 短絡すると、警告音(ピー)が鳴ります。
• 短絡状態を解除します。

一斉放送

• 一斉放送スイッチを押すとすべての作動表示灯が緑色に点灯します。
• 火災灯が点灯します。

放送復旧

• 放送復旧スイッチを押すとすべての作動表示灯が消えます。

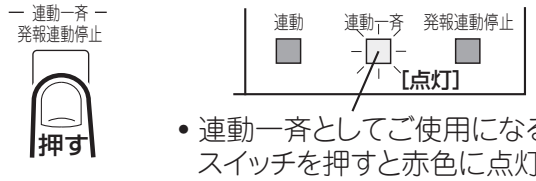
9 *8* の状態で、分電盤のスイッチを「切」にします。
8 の状態が継続していますか?
(確認後、すぐに分電盤のスイッチを「入」にしてください。)

10 非常復旧スイッチを押します。
火災灯、放送階選択指示灯、点灯している作動表示灯、マイク指示灯が消えますか?

11 コンピューター制御スイッチ(本体マイクドア内)を「切」にしてから「入」にしてください。
短絡表示灯、点滅している作動表示灯が消えますか?

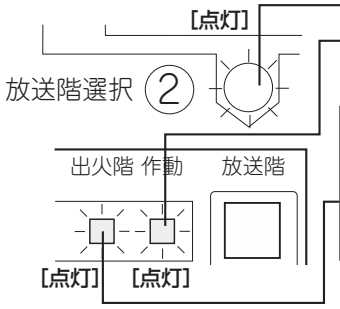
設置時の点検

12 連動一斉スイッチを押します。連動一斉表示灯が点灯しますか?



- 連動一斉としてご使用になるとき、連動一斉スイッチを押すと赤色に点灯します。

13 自火報の起動入力端子をショートします。火災灯が点滅、全館に音声警報放送が流れ、放送階選択指示灯、出火階表示灯、すべての作動表示灯が点灯しますか?(ブロック作動灯は点灯しません。)



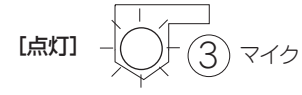
- 非常時、オレンジ色に点灯します。
- 非常時、すべての作動表示灯が緑色に点灯します。
- 非常時、赤色に点灯し、出火階を表示します。
- 一つの階に複数の室があるときは、その階のすべてが赤く点灯します。

14 マイク指示灯が点滅していますか?

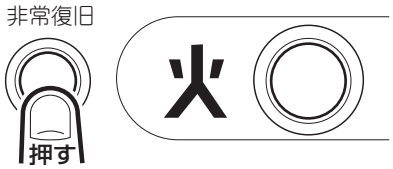
- 非常時、オレンジ色に点滅します。

15 本体マイクをはずし、アナウンスします。本体マイクスイッチを押すと、マイク指示灯が点灯し、音声警報放送が止まり、アナウンスがすべての階に流れますか?

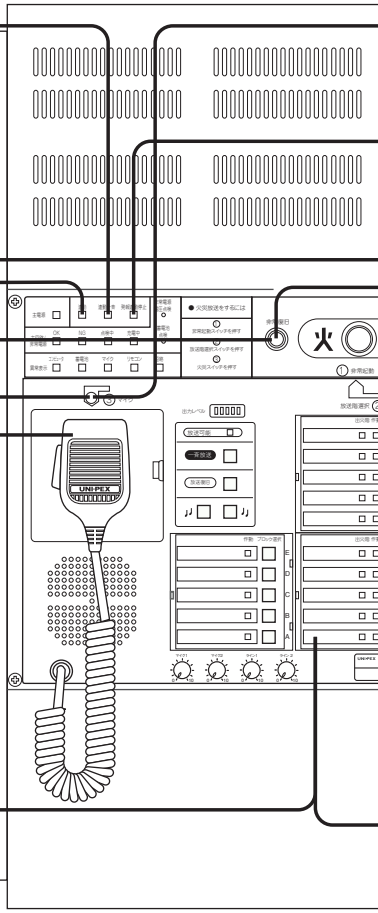
- スイッチを押しながら放送すると点灯します。



16 自火報の起動入力端子を復旧し非常復旧スイッチを押します。火災灯、放送階選択指示灯、出火階表示灯、すべての作動表示灯が消えますか?

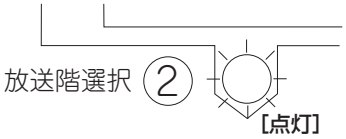


- 非常放送を復旧させるときこのスイッチを押します。

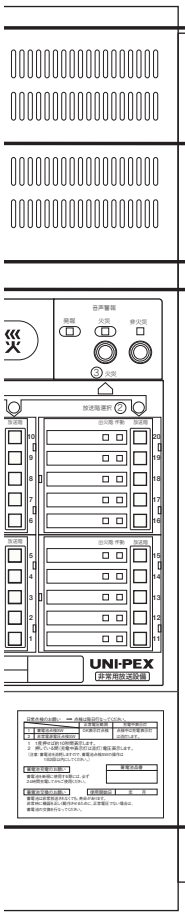


17 連動スイッチを押します。「連動一斉」が消え連動表示灯が点灯しますか?

18 自火報の起動入力端子をショートします。火災灯が点滅し、音声警報放送が流れ、放送階選択指示灯、出火階表示灯、出火階指定で書き込まれた出火階および連動階などの作動表示が点灯しますか?

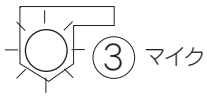


- 非常時、オレンジ色に点灯します。



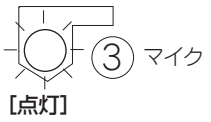
19 マイク指示灯が点滅していますか?

• 非常時、オレンジ色に点滅します。

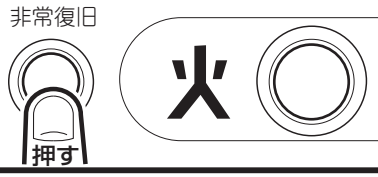


20 本体マイクを外し、アナウンスします。本体マイクスイッチを押すと、マイク指示灯が点灯し、音声警報放送が止まり、出火階、連動階などにアナウンスが流れますか?

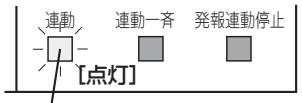
• スイッチを押しながら放送すると点灯します。



21 自火報の起動入力端子を復旧し非常復旧スイッチを押します。火災灯、放送階選択指示灯、出火階表示灯、すべての作動表示灯が消えますか?

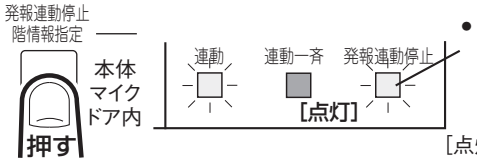


• 非常放送を復旧させるとき、このスイッチを押します。



• 連動としてご使用になるとき、連動スイッチを押すと赤色に点灯します。

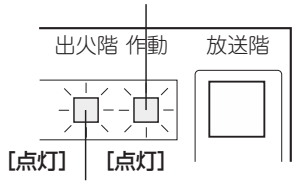
22 発報連動停止スイッチを押します。発報連動停止表示灯が点灯しますか?押すと消灯しますか?



• 発報連動停止スイッチを押すと赤色に点灯します。

[点灯状態で***23***へ]

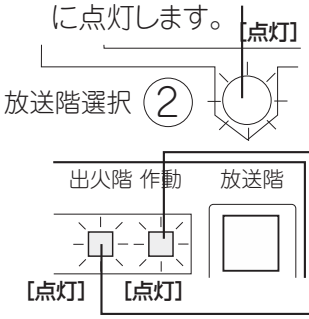
• 非常時、出火階および連動階などの作動表示灯が点灯します。(出火階指定で書き込まれたモードで作動します。)



• 非常時、赤色に点灯し、出火階を表示します。
• 一つの階に複数の室があるときは、その階のすべてが赤く点灯します。

23 自火報の起動入力端子をショートします。火災灯が点滅し、火災音信号「ピー、ピー、ピー」が鳴り、出火階表示灯、出火階指定で書き込まれた出火階および連動階などの作動表示灯が点灯しますか?

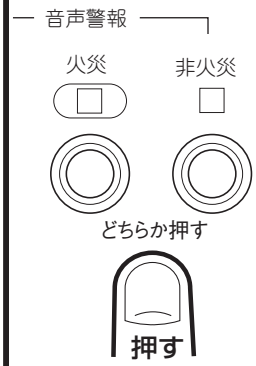
• 非常時、オレンジ色に点灯します。



• 非常時、出火階および連動階などの作動表示灯が緑色に点灯します。(出火階指定で書き込まれたモードで作動します。)
• 非常時、赤色に点灯し、出火階を表示します。
• 一つの階に複数の室があるときは、その階のすべてが赤く点灯します。
• マイク指示灯が点滅します。

設置時の点検

24 火災放送スイッチまたは非火災放送スイッチを押します。自動的に出火階、連動階などに火災放送または非火災放送が流れますか?(火災放送は次の操作まで、非火災放送は2回、繰り返し流れます。)



火災放送

ピンポン　ピンポン　ピンポン（第1シグナル音）
「火事です!火事です!○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）

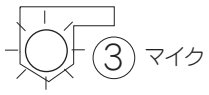
非火災放送

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

- 火災音信号(ピー、ピー、ピー)が消えます。

25 本体マイクをはずし、アナウンスします。本体マイクスイッチを押すと、マイク指示灯が点灯し、音声警報放送が止まり、出火階、連動階などにアナウンスが流れますか?

- スイッチを押しながら放送すると点灯します。

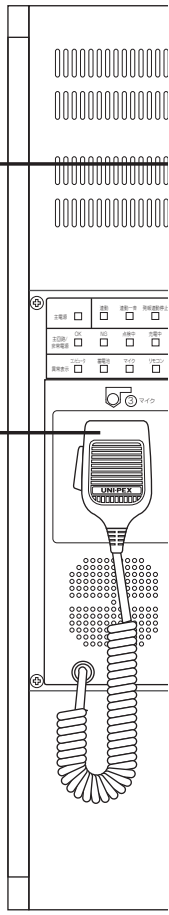


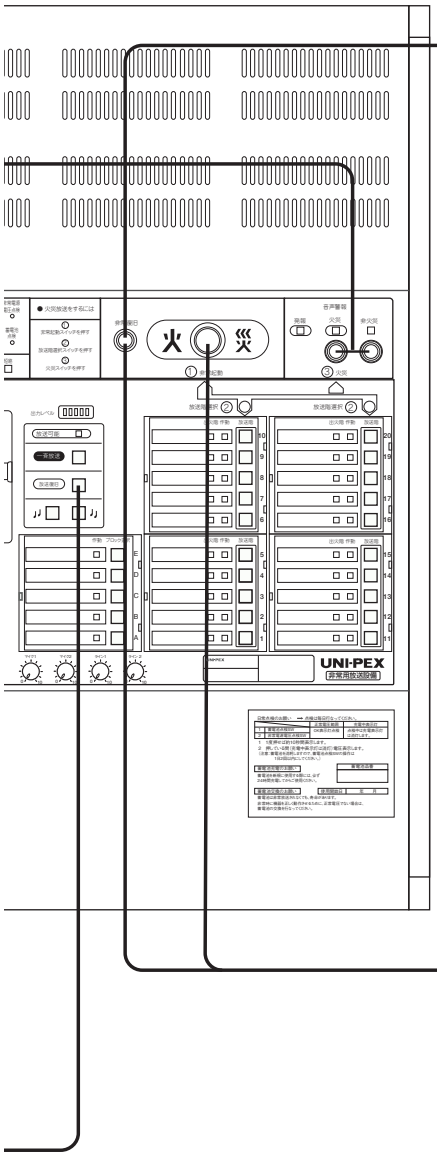
[点灯]

26 放送終了後は放送復旧スイッチを押します。作動表示灯が消え、放送階選択指示灯、マイク指示灯が点滅し、音声警報音が止まりますか?

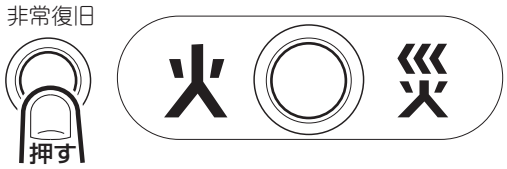
- 放送復旧スイッチを押すと作動表示灯が消え、放送階選択指示灯、マイク指示灯が点滅します。

[点滅]





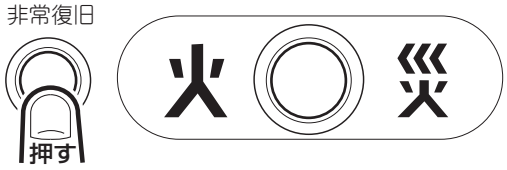
27 自火報の起動入力端子を復旧させ、非常復旧スイッチを押します。
火災灯、放送階選択指示灯、出火階表示灯が消えますか?



- 非常放送を復旧させるとき、このスイッチを押します。

28 非常起動スイッチを押し、任意の放送階選択スイッチを押すと発報放送を放送します。
第1タイマー設定時間経過後、火災放送が放送されますか?
第2タイマー設定時間経過後、一斉火災放送が放送されますか?

確認後は非常放送復旧スイッチを押して、音声警報を止めてください。

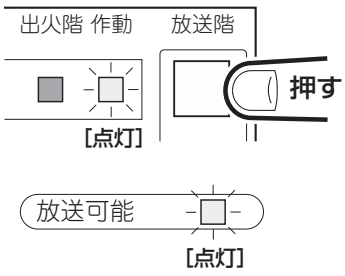


設置時の点検

■動作点検(業務放送)

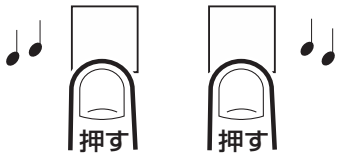
- 停電時は、業務放送はできません。
- 本機は後押し優先方式を採用しており、業務放送時には、常に後から操作した機器が優先します。

1 任意の放送階選択スイッチを押します。放送可能表示灯が点灯、押された階の作動表示灯が点灯しますか?



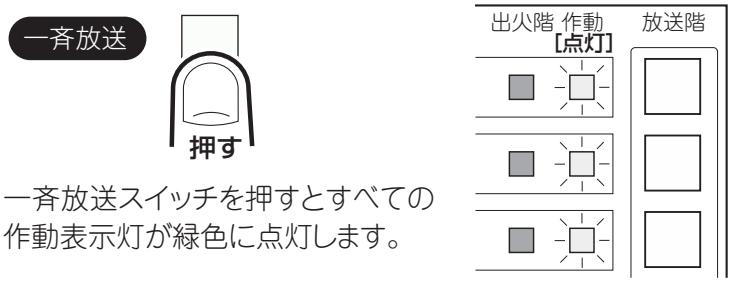
- 放送したい階の放送階選択スイッチを押します。(作動表示灯が緑色に点灯。)
- 一斉放送スイッチ、ブロック選択スイッチまたは、放送階選択スイッチを押すと、緑色に点灯し、放送可能状態となります。

2 コールサインスイッチを押します。1 で押した階にコールサインが鳴りますか?



- 放送したい場所の放送階選択スイッチまたはブロック選択スイッチを押した後に、コールサインスイッチを押します。

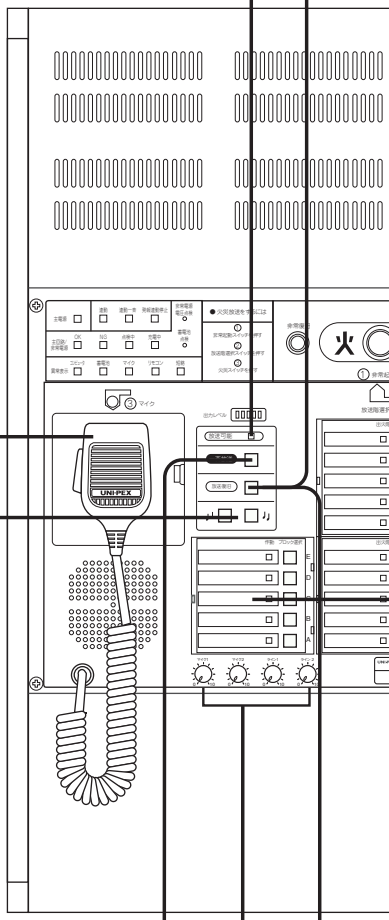
3 一斉放送スイッチを押します。すべての作動表示灯が点灯しますか?



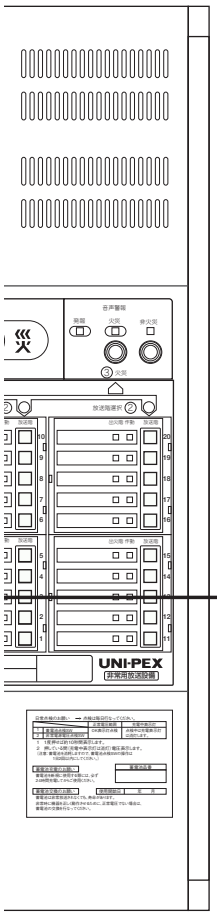
- 一斉放送スイッチを押すとすべての作動表示灯が緑色に点灯します。

4 本体マイクをはずし、アナウンスします。本体マイクスイッチを押すと、アナウンスが全館に流れますか?

- スイッチを押しながら放送します。



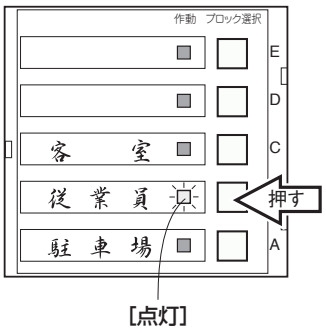
5 放送終了後は、放送復旧スイッチを押します。作動表示灯、放送可能表示灯が消えスピーカー放送も切れますか?



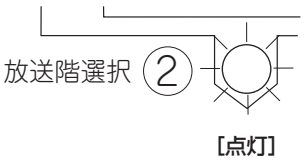
8 放送終了後は放送復旧スイッチを押します。作動表示灯、放送階選択指示灯、放送可能表示灯が消えますか?

- 放送復旧スイッチを押すと作動表示灯、放送可能表示灯が消えます。

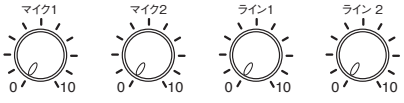
7 ブロック緊急指定したブロック選択スイッチを押し、アナウンスします。放送階選択指示灯が点灯し、ブロック緊急指定された場所の作動表示灯が点灯し、アナウンス放送が流れますか?



- 指定した場所の作動表示灯が緑色に点灯し、放送階選択指示灯がオレンジ色に点灯します。

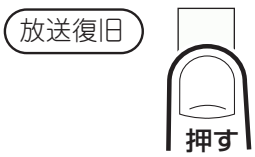


6 あらかじめ接続されている機器についてレベルを設定します。お客様に目盛の位置を教えてありますか?



- 出力レベル表示灯により各々の音量を決めてください。アナウンス、BGMなどの出力レベルは左表を目安としてください。

	出力レベル表示灯
アナウンス	緑色3～4個点灯
BGMなど	緑色1～2個点灯



- 放送復旧スイッチを押すと、作動表示灯、放送可能表示灯が消えます。

保守点検のしかた(保守点検者の方へ)

ご注意

非常放送設備の保守は、消防設備士(第4類甲、乙、第7類乙)または、第2種消防設備点検資格者でなければおこなえませんのでご注意ください。

■点検について

- 本機にはセルフチェック機能があり、コンピューターがリモコン回線、コンピューター自身、スピーカー回線(短絡)、本体マイクを常時点検し、24時間おきに蓄電池の点検をおこないます。
- コンピューターが異常を発見したときは、非常操作パネル左上の各異常表示の表示灯が点灯し、警告音(ピー)が鳴ります。異常箇所を確認し、販売店、保守契約店に連絡してください。(異常が本体か非常リモコンかを確認してください。)

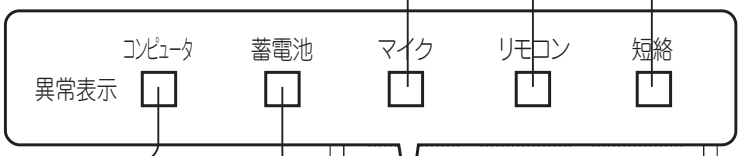
●警告音を止めるには操作パネルのいずれかのスイッチを押してください。

- 一時的に止めることができます。異常表示部の表示灯は点灯したままです(コンピュータ異常表示灯点灯時を除く)。

リモコン異常表示灯(赤色)
非常リモコンとの通信に異常が発生した時に点灯します。

短絡表示灯(赤色)
スピーカー回線が短絡すると点灯し、短絡した場所の作動表示灯が緑色に点滅します。

マイク異常表示灯(赤色)
本体マイクが断線状態になると点灯します。
リモコンのマイク異常であれば、異常のあるリモコンのマイク異常表示灯が点灯します。

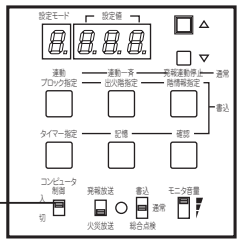


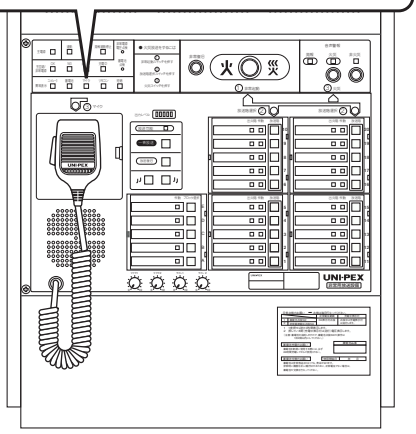
コンピューター異常表示灯(赤色)
コンピューターが異常のとき点灯します。

蓄電池異常表示灯(赤色)
蓄電池が異常のとき点灯します。
警告音(ピー)が4秒おきに鳴ります。

コンピューター異常、蓄電池異常、本体マイク異常、リモコン異常、短絡異常になったとき、復旧後は、コンピューター制御スイッチを「切」にしてから(リセット)、「入」にしてください。

本体マイクドア内

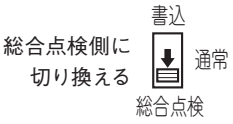




■総合点検について

●外部に音を出さずに、本機の総合点検ができます。

1. 本体マイクドアを開け、「書き込みスイッチ」を「総合点検」にします。
2. 業務放送および、非常放送をおこないます。このとき、外部には音が出ませんので、それぞれの表示灯、指示灯および出力レベル表示灯が働いていることを確認します。(本体マイクドア内の設定値表示部は [C HE] と表示します。)
3. 全ての動作を確認しましたら、「書き込みスイッチ」を「通常」にし、発報放送/火災放送切換スイッチと共に固定金具で固定してください。



固定金具で固定する

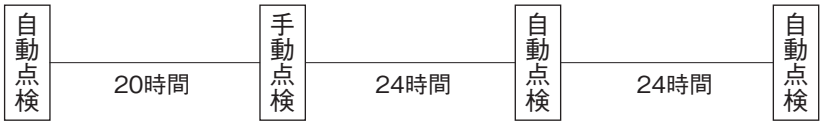
⚠注意

- 書き込みスイッチを「総合点検」の位置のままにしておきますと、非常放送ができません。必ず、「書き込みスイッチ」を「通常」にし、固定金具にて固定してください。
- 「総合点検」状態で5分間以上操作を行わないと、スイッチの戻し忘れ防止のため、警告音(ピー)が鳴ります。その際は、コンピューター制御スイッチを一度「切」にし、再度「入」にしてください。

■電源の点検

メ　モ

- 本機には、セルフチェック機能があり、コンピューターが24時間おきに蓄電池の点検を自動的におこないますが、手動でも点検がおこなえます。
- 手動で点検をおこないますと、コンピューターは、それから24時間おきに自動的に点検をおこないます。



●自動点検

コンピューターが24時間おきに点検をおこないます。

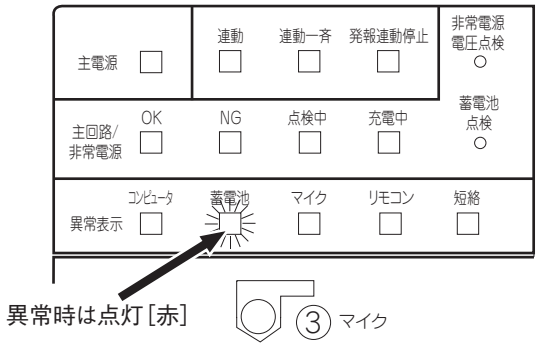
〔コンピューターが蓄電池の異常を発見したとき〕

- 異常表示部の「蓄電池異常表示灯」が点灯し、4秒おきに警告音(ピー)が鳴ります。

〔処置〕

- 操作パネルのいずれかのスイッチを押すと警告音(ピー)が止まります。販売店または、保守契約店にご連絡ください。
- 警告音(ピー)が止まっても異常表示灯は赤く点灯したままです。

コンピューターが異常を発見したとき



●手動点検

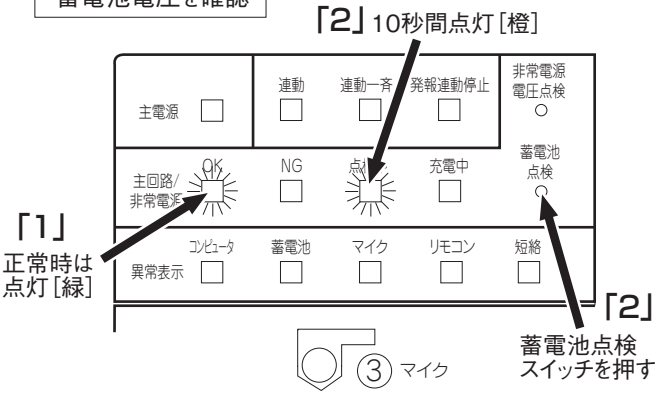
1. 主回路電源電圧を確認してください。

非常電源電圧点検スイッチを押さない状態で、主回路／非常電源のOK表示灯(緑色)が点灯していることを確認します。

2. 蓄電池電圧を確認してください。

蓄電池点検スイッチを押して、主回路／非常電源のOK表示灯(緑色)が点灯していることを確認します。点検中表示灯(橙色)が約10秒間点灯します。

蓄電池電圧を確認



⚠ 注意

蓄電池の電圧の点検は、1日の点検で2回以内までとしてください。
指定回数より多く蓄電池点検スイッチを押したり、押し続けたりすると、蓄電池が消耗し、非常時に本システムが動作しなくなる恐れがあります。

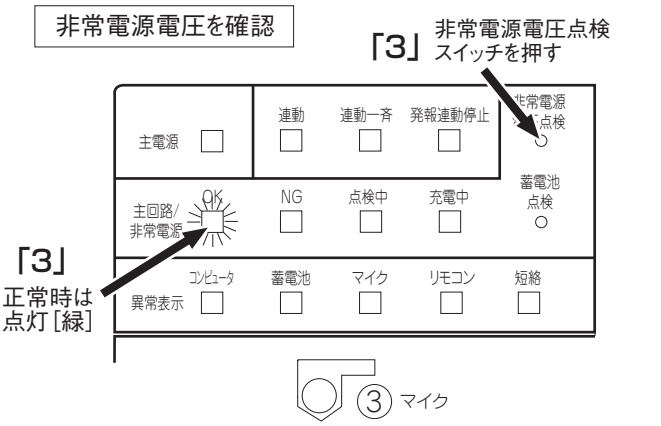
3. 非常電源電圧を確認してください。

非常電源電圧点検スイッチを押して、主回路／非常電源のOK表示灯(緑色)が点灯していることを確認します。

4. 充電中表示灯が点灯していることを確認してください。

- 充電中は点灯となります。

非常電源電圧を確認



保守点検のしかた

●蓄電池の交換について

⚠注意

蓄電池の交換は、販売店か保守契約店に依頼する

感電の原因となります。

電力増幅ユニット(出力)	ニカド蓄電池
	品　　番
PWA-060(60W)	MBT-060
PWA-120(120W)	MBT-120
PWA-241(240W)	MBT-240
PWA-361(360W)	MBT-240

- 蓄電池は非常放送されなくても、寿命があります。
- 点検の際容量不足があれば、新品と交換してください。
- 交換した蓄電池の取り扱いは注意してください。

Ni-Cd

このマークはニカド電池のリサイクルマークです。ご使用済のニカド蓄電池は貴重な資源です。再利用しますので、廃棄しないでニカド電池リサイクル協力店にご持参ください。

⚠警告

●蓄電池は、使用開始日から4年を経過したら、点検時に正常電圧が表示されても必ず新しい蓄電池に交換してください。また、寿命は使用状態により異なりますので、それ以前でも点検時に容量不足があれば、新しい蓄電池に交換してください。

●交換は保守契約店または工事店にご依頼ください。

⚠注意

●蓄電池を交換する際は電力増幅ユニットのワット数に合わせて必ず上表のものを使用してください。
これ以外の蓄電池を使用することは充電電流の違いなどから過充電などの危険な状態になりますので絶対に使用しないでください。

●蓄電池を交換する場合は、電力増幅ユニットなどの電源スイッチを「入」にした状態でおこなってください。

■スピーカー回線の点検および絶縁抵抗試験

⚠注意

スピーカー接続、EL／EF／EB等の各端子には、雷サージおよび静電気保護のためにシャーシとの間に、サージアブソーバーが取り付けられています。指定のコネクターをはずしてから絶縁抵抗試験をおこなってください。はずさないで試験をおこなうと、試験結果はNGとなります。
また、絶縁抵抗試験は配線の片側と大地間でおこないます。配線相互間でおこなうと、接続されている機器（含む本機）が破損します。

●スピーカー端子の絶縁抵抗試験

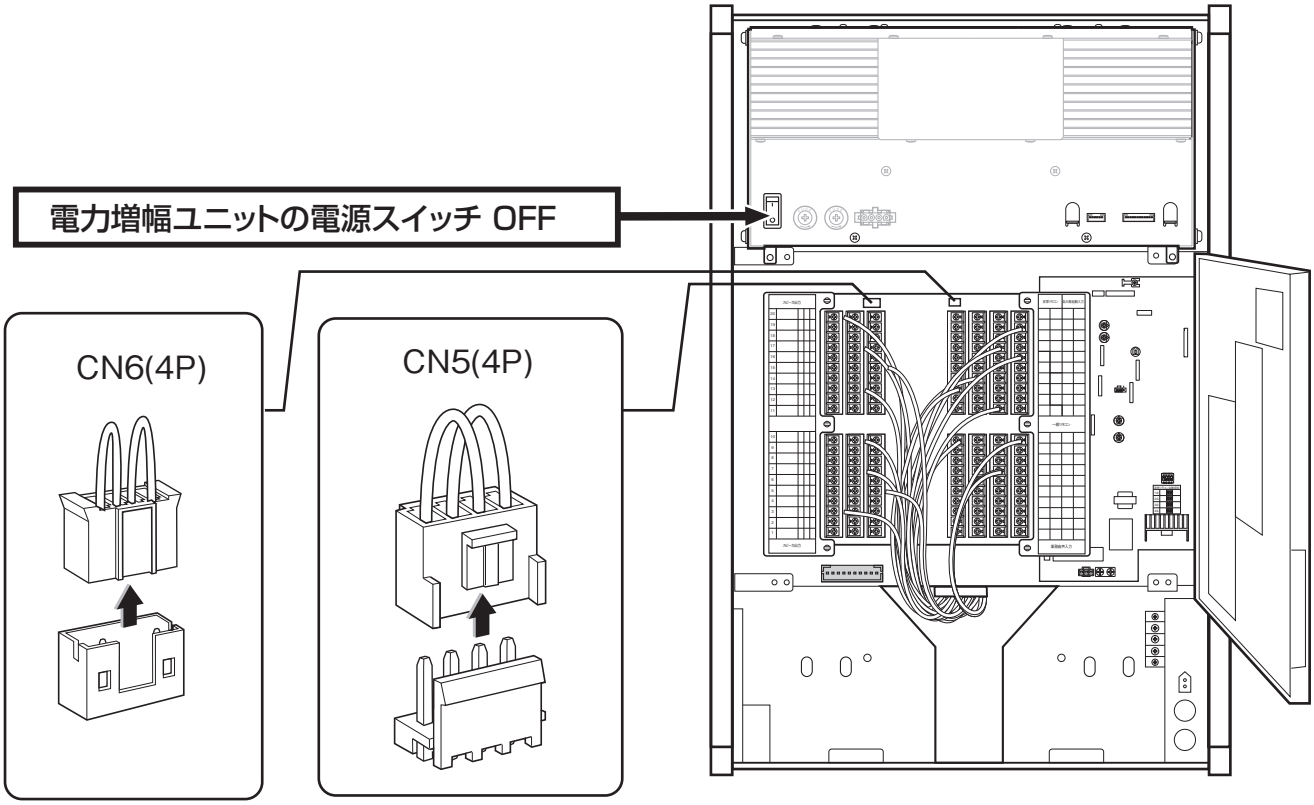
必ず電力増幅ユニットの電源スイッチをOFFにして、かつCN5をはずしてください。

- はずしたコネクターは試験後にもどしてください。
- 絶縁抵抗試験は電源スイッチOFFの状態でおこなってください。

●自火報側（EL／EF／EB）で絶縁抵抗試験をする場合

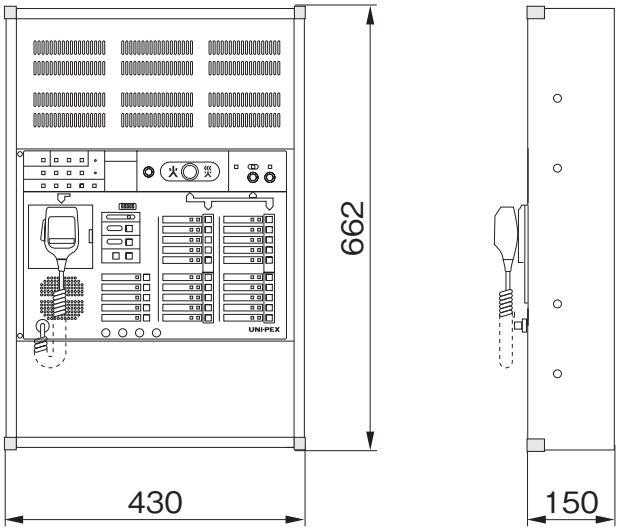
必ず電力増幅ユニットの電源スイッチをOFFにして、かつCN5、CN6をはずしてください。

- はずしたコネクターは試験後にもどしてください。
- 絶縁抵抗試験は電源スイッチOFFの状態でおこなってください。



- **スピーカー端子の絶縁抵抗試験対策用コネクター　→　CN5**をはずす。
- **自火報側（EL／EF／EB）での絶縁抵抗試験対策用コネクター　→　CN5、CN6**をはずす。

外観寸法図（単位：mm）



サポートのご案内

■ **修理・お取扱い・お手入れについてのご相談・ご依頼は、お買い上げの販売店にお申し付けください。**
販売店に修理を依頼する場合は、下記の項目をお確かめください。
①品　名　②品　番　③お買い上げ日　④故障の状況（できるだけ具体的にお願いします）

■ **販売店がご不明な場合は、最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。**

営業所情報はホームページ
もしくは2次元コードにアクセス
してください。
https://www.unipex.co.jp

■ **その他ご不明な点は、お客様ご相談センターへご相談ください。**

UNI-PEX お客様ご相談センター
0120-56-5245（通話料無料）
受付時間／9:00～17:00（土・日・祝日除く）
携帯電話からのご利用は、
072-855-3334（通話料がかかります）

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】
お客様ご相談センターにおけるお客様の個人情報は、ご相談対応、修理およびその確認に使用いたします。個人情報は適切に管理し、正当な理由がある場合を除き、第三者に提供または開示いたしません。

お客様控え欄

お買い上げ年月日	年　月　日
販売店名	

メモ